

法政大學講義録

田中, 遜 / 塚田, 達二郎 / 中村, 進午 / 鈴木, 英太郎 / 清水, 澄 / 山崎, 覺次郎 / 梅, 謙次郎 / 秋山, 雅之介

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

1-24

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1904-06-01



(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
每月十四日三五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行

三十七年度

明治三十七年六月一日發行

第一學年ノ二十四

法政大學講義錄

第七拾四號



法政大學發行

第一 臺灣總督府明治三十年十月勅令第三百六十二號參照

臺灣總督府ハ普通一般ノ地方官廳ト異ニシテ臺灣及ヒ澎湖島ヲ管轄スル特別ノ官府ナリ臺灣總督ハ委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率シ内務大臣ノ監督ヲ受テテ諸般ノ政務ヲ統理シ加之勅裁ヲ經テ法律ニ代ルヘキ效力ヲ有スル律令ヲ發スルノ權限ヲ有ス又總督ハ其管轄區域内ノ安寧秩序ヲ保護センカ爲メニ必要ト認メタル場合ニハ兵力ヲ用フルコトヲ得ヘク又守備隊長若クハ駐在武官ヲシテ民政事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得ヘシ

第二 府縣明治二十六年勅令第六十二號參照

府縣知事ハ其職務ノ全部ニ付テハ内務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ各省ノ主務ニ關スル各部分ニ付テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理シ行政事務ニ付テハ其職權ニ依リ又ハ特別ノ委任ヲ受ケテ府縣令ヲ發スルコトヲ得該府縣令ニハ十圓以内ノ罰金ヲ科シ又ハ十日以内ノ拘留ニ處スルコトヲ得兵力ヲ用フルノ要アルカ又ハ兵備ヲ要スルトキハ知事ハ師團長又ハ旅團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得知事ノ補助機關トシテ書記官警部

長視學官參事官技師典獄警視屬視學警部通譯監獄書記看守長等アリ知事ハ自己ノ下級官吏ヲ監督スルノ權限ヲ有シ郡長又ハ島司ノ發シタル命令又ハ處分カ成規ニ違フカ公益ヲ害スルカ又ハ權限ヲ侵スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得ヘシ知事ハ又其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡長又ハ島司ニ委任スルコトヲ得

第三 北海道廳明治三十年十月勅令第三百九十二號參照

北海道廳長官ハ府縣知事ト同シク其職務ノ全部ニ付テハ内務大臣ノ監督ヲ受ケ各省ノ主務ニ關スル各部分ニ付テハ各省大臣ノ監督ヲ受ケ法律命令ヲ執行シ北海道ノ拓地殖民並ニ部内ノ行政事務ヲ管理シ其他北海道廳長官ハ屯田兵ノ開墾授産ノ事ヲ監督シ廳令ヲ發スルヲ得ルコト師團長旅團長又ハ屯田兵司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フヲ得ルコト支廳長カ爲シ又ハ發シタル處分又ハ命令カ成規ニ違フカ公益ヲ害スルカ又ハ權限ヲ侵スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ停止スルヲ得ルコト府縣知事ニ同シ

第三節 地方行政

地方行政ハ地方團體ニ依リテ行ハル地方團體ノ機關ハ府縣郡及ヒ市町村ナリ
（明治三十二年三月法律第六十四號府縣制）
（明治三十四年三月法律第二號北海道廳制）

第一款 府縣道

府縣ハ法人ニシテ官ノ監督ヲ受ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其公共事務並ニ從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及ヒ將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス府縣ノ機關ハ府縣會及ヒ府縣參事會ナリ府縣會議員ノ選舉權ヲ有スル者ハ府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ニ限ル次ニ被選舉權ヲ有スル者ハ府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其府縣内ニ於テ一年以來直接國稅十圓以上ヲ納ムル者ニ限ル又ハ被選舉權ヲ有スル者ハ左ノ如シ
一 其府縣ノ官吏及ヒ有給吏員

二 檢事警察官吏及ヒ收稅官吏

三 神官僧侶其他諸宗教師

四 小學校教員

府縣會議員ノ數ハ人口ノ多少ニ依リテ異ナリ人口七十萬未滿ノ府縣ハ七十八人ヲ定員トシ七十萬以上百萬以下ハ五萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増ス
府縣會ノ議決スヘキ事項ハ左ノ如シ

一 歳入出ノ豫算ヲ定ムル事

二 決算報告ニ關スル事

三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料府縣稅及ヒ夫役現品ノ賦課徴收ニ關スル事

四 不動産ノ處分並ニ買受讓受ニ關スル事

五 積立金穀等ノ設置及ヒ處分ニ關スル事

六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及ヒ權利

六ノ拋棄ヲ爲ス事

七 財産及ヒ營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但法律命令中別段ノ規定アルモ

八 其他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項

府縣參事會ハ府縣知事内務大臣ヨリ命セラレタル府縣高等官二名及ヒ府ニ於テハ名譽職參事會員八名縣ニ於テハ名譽職參事會員六名ヲ以テ之ヲ組織ス名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ニ就キ之ヲ選舉ス

府縣參事會ノ職務權限ハ左ノ如シ

- 一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタル事項ヲ議決スル事
- 二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代リテ議決スル事
- 三 府縣知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニ付キ府縣知事ニ對シ意見ヲ述フ
- 四 府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及ヒ營造物ノ管理ニ關シ重要ナ

ル事項ヲ議決スル事

第五 府縣費ヲ以テ支辨スルキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但法律命令中別段ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第六 府縣ニ係ル訴訟、訴訟及ヒ和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

第七 其他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項

府縣ハ法人ナルカ故ニ自ラ財産ヲ所有スルコトヲ得ヘク自己ノ財産ニ依リテ自己ノ行政ヲ經營スルコトヲ得ヘシ府縣若シ府縣財産ノ收入ニ依リテ行政ヲ爲スコト能ハサルニキ府縣内ニ住所ヲ有スル者及ヒ府縣内ニ三箇月以上滞在スル者ニ對シテ府縣稅ヲ課スルコトヲ得又住所ヲ有セス又ハ滞在ヲ爲サザルモ府縣内ニ土地家屋物件ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲シ又ハ特定ノ行爲ヲ爲ス者ニ對シテ地租、家屋稅、營業稅等ヲ課スルコトヲ得

府縣ノ行政ハ内務大臣ノ監督スル所ナリ故ニ内務大臣ハ府縣行政ノ監督ニ關シ必要ナル命令ヲ發シ又處分ヲ爲スル權利ヲ有シ又府縣行政カ法律命令ニ違反セザルヤ否ヤ公益ヲ害セザルヤ否ヤヲ監視シ又府縣ノ豫算中不適當ナリト

認ムヘキモノアルハ之ヲ削減スルコトヲ得ヘク又勸業ヲ經テ府縣會ヲ解散スルコトヲ得ヘク左ノ事項ニ關シテハ許可ノ權利ヲ有ス

- 一 學藝技術又ハ歴史上重要ナル物件ヲ消滅シ若シハ變更スルコト
- 二 使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スルコト
- 三 寄附又ハ補助ヲ爲ス事
- 四 不動産ノ處分ニ關スル事
- 五 夫役又ハ現品ヲ賦課スル事但急迫ノ場合ハ此限ニ在ラス
- 六 繼續費ヲ定メ若シハ變更スル事
- 七 特別會計ヲ設クル事

北海道ニハ北海道會ナルモノアリ北海道會ハ北海道法及ヒ北海道會議員選舉法ニ依リテ選舉スル所ノ三年ヲ任期トスル名譽職タル議員ヲ以テ組織ス北海道會ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノトシテ外北海道地方費ノ歲入出豫算及ヒ北海道地方税ノ課目課率ヲ議決ス

第二款

郡(明治三十二年三月法律第六十五號參照)

郡モ亦法人ニシテ官ノ監督ヲ受ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其公共事務並ニ法律勅令ニ依リ郡ニ屬スル事務ヲ處理ス郡ノ機關ハ郡會及ヒ郡參事會ナリ郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其郡内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ニ限リ郡會議員ノ選舉權ヲ有シ同シク年額五圓以上ヲ納ムル者ニ限リ被選舉權ヲ有ス此資格ヲ具フルニ拘ハラズ官吏宗教師小學校教員等ハ被選舉權ヲ有セズ郡會議員ノ數ハ十五人以上三十八人以下郡内務大臣ノ許可ヲ得テ特ニ四十人ト爲スコトヲ得

- 郡會ノ議決スヘキ事項左ノ如シ
- 一 歲入出豫算ヲ定ムル事
 - 二 決算報告ニ關スル事
 - 三 法律命令ニ定ムルモノヲ除外使用料手数料及ヒ夫役現品ノ賦課徴收
 - 四 郡内事務

四 不動産ノ處分並ニ買受讓受ニ關スル事

郡參事會ハ郡長及ヒ郡會議員中ヨリ選舉シタル五名ノ名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス郡參事會ハ職務權限ハ概テ府縣參事會ノモノニ同シ

第三款 市町村

市町村トハ一定ノ土地ヲ限リ其内ニ住居スル人居住ヲ以テ足レリトシ敢テ本籍ヲ有スルコトヲ要セズカ自治的ニ公共事務ヲ處理スル團體ナリ市町村ノ住民ニ公民ト非公民トノ二種アリ公民トハ日本人ニシテ年齡滿二十五歳ニ達シ二年以上其地ニ住居シ且二年以上其地ノ負擔ヲ分任シ該市町村内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納メ一月ヲ擇ル公權ヲ有スル者ナリ市ノ機關ハ市會ト市參事會トニシテ町村ノ機關ハ町村長ト町村會トナリ此等ニ關スル委曲ハ明治二十一年四月法律第一號市制町村制ヲ參照スヘシ

第四節 行政訴訟及ヒ訴願

行政訴訟ハ違法ナル行政處分ニ因リ箇人ノ權利ヲ害シタル場合ニ被害者ヨリ提起スル訴訟ナリ我國ニ於テハ此ノ如キ訴訟ヲ裁判スル裁判所ヲ行政裁判所ト謂フ行政裁判所ノ設ケラルル所以ハ行政ヲ不當ナラサラシメシムル爲メニ之ヲ監督セシト欲スルニ在リ得ル事也 茲將該法ニ關シテ之ノ要點ヲ列シ之

訴願ハ箇人ノ利益カ行政處分ニ因リテ害セラレタル場合ニ於テ此處分ニ關係ヲ有スル者カ之カ救済ヲ得シカ爲メニ利益ヲ害スル行爲ヲ爲シタル行政官ノ處分ヲ變更スル權限ヲ有スル上級ノ行政廳ニ對シテ爲ス所ノ一種ノ請願ナリ但各省大臣ノ爲シタル處分ニ對シテ訴願ヲ爲スニハ必ス其省ニ向テ之ヲ爲スヘキモノナリ

普通ノ請願ハ自由ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ訴願ハ一定ノ形式ヲ踐ミテ之ヲ爲ササルベカラヌ一定ノ形式トハ文書ヲ以テスルコト行政處分ヲ受ケタル後六十日以内ニスルコト訴願書ニ不服ノ要點理由要求及ヒ訴願人ノ身分職業年齡ヲ記載シ署名捺印スルコト等ナリ

訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外左ノ事項ニ付キ提起スルコト

トヲ得(明治二十三年十月法律第五百五號訴訟法參照)五ノ事項ニ付テ訴訟スルハ
一 債租稅及ヒ手数料ノ賦課ニ關スル事件

二 六 租稅息納處分ニ關スル事件
三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
四 水利及ヒ土木ニ關スル事件

五 土地ノ官民有區分ニ關スル事件
六 地方警察ニ關スル事件

行政訴訟ニ關スルコトハ明治二十三年十月法律第六號行政廳ノ違法處分ニ
關スル行政裁判ノ件及ヒ明治二十三年六月法律第四十八號行政裁判法ニ依リ

テ規定スル所ナリ
行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル事項ハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク

外次ノ五件ナリ
一 海關稅ヲ除ク外租稅及ヒ手数料ノ賦課ニ關スル事件

二 租稅滯納處分ニ關スル事件

ナリ然レトモ此議員ヲ選舉スルノ方法ニ至リテハ各國其軌ヲ一ニセスシテ選
舉ノ方法ニ付キ種種ノ種類存スルモノナリ其選舉ノ種類ヲ大別スルトキハ普
通選舉及ヒ制限選舉、直接選舉及ヒ間接選舉ニ分タルモノナリ仍ホ其他近時
ニ至リ多數代表ノ選舉及ヒ少數代表ノ選舉トノ區別モ生シタルナリ仍ラ是ヨ
リ順次其選舉ノ種類ニ屬スルモノノ大略ヲ説明セント欲ス

第一項 直接選舉及ヒ間接選舉

直接選舉トハ國民カ直接ニ議員ヲ選舉スルノ制ニシテ間接選舉トハ國民カ議
員ノ選舉人ヲ選ヒ更ニ其選舉人カ議員ヲ選フノ制度ヲ指スモノナリ而シテ普
遍西其他獨逸中ノ一二ノ國ニ於テハ其衆議院議員ヲ此間接選舉ノ方法ニ依リ
テ選フモノナリ間接選舉ハ比較的議員ヲ選フノ知識若クハ能力ヲ有スル者カ
議員ヲ選フノ利益アリト雖モ間接選舉ハ二重ノ選舉ノ勞ヲ必要トスルニ由リ
官廳及ヒ選舉人ノ雙方ニ於テ其費用ト時間トヲ費スコト少カラス故ニ多クノ
國ニ於テハ直接選舉ヲ採用スルモノニシテ又我國ニ於テモ之ヲ採用ス

第二項 普通選舉及ヒ制限選舉

普通選舉トハ納税ノ額若クハ教育ノ程度等ヲ以テ選舉人タルノ資格要件ト爲ササルノ制ニシテ制限選舉トハ此等ノモノヲ以テ選舉人タルニ必要ナル要件ト爲スノ制ナリ故ニ普通選舉ニ於テモ男子タルコト、成年ニ達シタルコト、公權ヲ享有スルコト等ヲ要件ト爲スコトアリ之カ爲メニ普通選舉タルコトヲ妨ケサルナリ單ニ普通ノ文字ヨリシテ國民一般ニ無制限ニ選舉權ヲ與ヘタルモノト誤解スヘカラス之ニ反シ制限選舉ハ又次ノ種類ニ分クル

第一 通常制限選舉

通常制限選舉トハ或一定ノ要件ヲ具フル者ニ對シ平等ニ選舉權ヲ行ハシムルノ制度ナリ此制度ハ制限選舉中最モ簡便ナル方法ナルニ由リ廣ク行ハレ我國ニ於テモ亦之ヲ採用ス仍テ我現行法ニ就キ我選舉人ノ資格要件ヲ茲ニ述フルトキハ我衆議院議員ノ選舉人ハ次ノ要件ヲ具フルコトヲ要ス

一 選舉人名簿調製ノ期日前滿一箇年以上、地租十圓以上又ハ滿二年以上、地租

以外ノ直接國稅十圓以上若クハ地租ト他ノ直接國稅トヲ合シテ十圓以上ヲ納メ猶ホ引續キ納ムル者ナルコト

此第一ノ要件ハ我選舉ノ制度ノ通常制限選舉タルコトヲ示スモノナリ唯其制限ノ要件ハ教育ノ程度ニ及ハスシテ納税ノ額ニ止マルノミ

二 日本帝國臣民タル男子ニシテ選舉人名簿調製ノ日ヨリ起算シ年齡滿二十五歲以上ナルコト

我國ト等シキ滿二十五歲以上ニ達シタルコトヲ要件トスル白耳義國ノ如キ例ナキニ非スト雖モ普瀋西ニ於テハ滿二十四歲以上ト爲シ英佛ニ於テハ更ニ進ミテ滿二十一歲以上ト爲シ瑞西ニ於テハ滿二十歲ト爲セルニ由リ我國ノ選舉ニ必要ナル年齡ハ高キニ過クルノ疑ナキニ非サルナリ

三 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其選舉區内ニ住所ヲ有シ猶ホ引續キ有スルモノナルコト

此要件ハ選舉區ヲ設クルカ爲メニ生スル結果ナリ選舉區ハ後ニ述フルカ如ク必スシモ選舉ニ必要ナルモノニ非スシテ寧ろ選舉區ヲ設ケサルヲ以テ選舉ノ

目的ヲ達スルモノナリト謂ハサルヲ得スト雖モ選舉人ノ多キ國ニ於テ之ヲ設ケサルトキハ手續上ノ困難少カラサルニ由リ之ヲ設クルハ已ムヲ得サルコトナリ

四 華族ノ戶主ニ非サルコト

華族ハ前ニ述ヘタル如ク貴族院議員ニ出ツルコトヲ得ルモノナルニ由リ衆議院ト區別シテ貴族院ヲ設クルノ目的ヲ貫徹スルカ爲メ華族ノ戶主ハ總テ衆議院議員ノ選舉權及ヒ被選舉權ヲ與ヘサルコトト爲シタルナリ

五 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及ヒ戰時若クハ事變ニ際シ召集中ノ者ニ非サルコト

六 官立公立私立學校ノ學生生徒ニ非サルコト

七 禁治産者準禁治産者及ヒ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ラサル者並ニ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ其確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル間ノ者ニ非サルコト

八 剝奪公權及ヒ停止公權ノ者或ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ非サルコト

レドモ尙モ其治罪法ヲ施行シテ行キ刑法ヲ適用シテ行カウト云フノニハ裁判所ノ構成モ改メナケレバナラナカドモデスカラ暗ニ其治罪法ノ規定ヲ以テ

裁判所ノ構成ヲ改メテ即チ第三十一條以下ニアル先ヅ裁判所ノ種類ヲ治安裁判所始審裁判所控訴院及ビ大審院ト斯ク四段ニ致シマシタ而シテ其治安裁判

所ガ刑事事ヲ云フト違警罪裁判所トナリ始審裁判所ガ輕罪裁判所トナッタ尙ホ此

外ニ重罪裁判所及ビ高等法院ナル常設ニ非ザル裁判所ガ規定セラレテ居ル是

ニ因テ裁判所ノ構成ガ一大變革ヲ致シタ併シ司法官ノ獨立ヲ認メ且ツ其資格

ヲ定メタノハ明治十九年五月ノ裁判所官制ヲ改メテ司法官ノ獨立ヲ認メ

終身官トシ且ツ其資格ヲ定メタ其時カラ判檢事ノ試験ト云フモノガ始マテ併シ

裁判所ノ構成ノ全キヲ得タノハ二十三年二月ニ現行ノ裁判所構成法ト云フモノ

ノガ發布セラレテ同年ノ十一月カラ施行セラレタノゾアリマヌ

以上ニテ我邦ノ沿革ヲ説キ終リテハシタカラ次ニ歐羅巴ノ沿革ニ移リマス

第三節 歐洲ノ沿革

歐羅巴ノ沿革ニ移リマス

歐羅巴ノ沿革ニ移リマス

歐羅巴ノ沿革ニ移リマス

歐羅巴ノ沿革ニ移リマス

歐羅巴ノ沿革ニ移リマス

歐羅巴ノ沿革ニ移リマス

歐羅巴ノ沿革ニ移リマス

歐羅巴ノ沿革ニ移リマス

歐羅巴ノ沿革ニ移リマス

歐羅巴ノ沿革ニ移リマス

歐羅巴ノ沿革ニ移リマス

御承知ノ通り我邦ノ今日ノ法律ハ單ニ從來ノ慣習ヲ基礎トシテ立テタル法律
 デハナクシテ歐羅巴ノ法律ヲ模範トシテ居ル所ノ法律デアアル故ニ歐羅巴ノ法
 律ノ沿革ハ取モ直ツズ我邦ノ法律ノ沿革ノ一部ヲ成シテ居ルモノト云フ宜シ
 イゾレ故ニ簡單ニ歐羅巴ノ法律ノ沿革ヲ御話スル必要アリト思フ
 先ツ第一ニ羅馬法ノ事デアアル歐羅巴ノ今日ノ法律ハ主トシテ羅馬法カラ來
 テ居ル故ニ西洋デハ羅馬法ノ研究ヲ最モ必要トシテ居ルヲデアアルチテ羅馬法
 トハ如何ナルモノデアアルカト云フコトハ一言ニシテ之ヲ盡スコトハ出來マセ
 スガ、一大部分ハ慣習法ト學者ノ研究ニ成テタ所ノ學說或ハ裁判例等カラ成立
 テ居リマスケレドモ成文モ亦具テ居ッタデアアル先ヅ彼ノ所謂十二表法ト
 銅表トモ云ヒマスト云フモノハ羅馬ノ曆デ第三百三年乃至第三百五年ニ出來
 タモノデアラフ今日ノ西洋ノ曆デ云ハバ紀元前第四百五十年乃至第四百四十八
 年ニ出來タモノデアアル是ガ羅馬法ノ基礎デアアル併シ是ハ極メテ不完全ナルモ
 ノデアラフ後世段之ヲ補ウテ參ッテ居ル最後ニ羅馬法ノ法典ト謂フベキモノ
 ハ彼ノジュヌスチニヤン帝ノ時ニ出來タ法典デアアルソレハ三ツノ種類カラ成立ッ

テ居ル其一ハ勅令彙纂ト通常譯シマス、第二ハ學說彙纂ト譯スル學者ノ意見及
 ビ裁判例ヲ集メタモノデアアル、第三ハ法學入門ナドト譯スル人モアリマスケレ
 ドモ、入門ト云フノハ少シ如何ハシイノデ私ハ法學教科書ト云フ教科書ト云フ
 法律ガアルト云フノハヲカシイノデアアルガ當時ジュヌスチニヤン帝ガ是ニ由ッテ
 法學ノ教授ヲ爲スヤウニト云フノデ即チ教科書ノ目的ヲ以テ作ッタ所ノ法典デ
 アルカラ其意味ヲ言表ハスニハ法學教科書ト云フテ宜カラウト思フ此三ツノ法
 典カラ最後ノ羅馬法ト云フモノハ成立ッテ居ル是ガ歐羅巴全體ニ涉ッテ行ハレタ
 多少ノ變遷ハ經テ居リマスケレドモ殆ド今日ニ至ルマデ此羅馬法ハ行ハレテ
 居ル
 次ニ日耳曼法ト云フモノハ羅馬法ニ較ベレバ餘程幼稚ナモノデアア
 タ左レバゴッ初ハ日耳曼人種ノ住ンデ居ッタ國ノ一大部分ハ羅馬ニ侵略セラレタ
 其處ニ幾分カ羅馬法ガ行ハレタノデアアル後羅馬ガ衰ヘテ却テ日耳曼ガ跋扈シ
 テ終ニ羅馬帝國ヲ奪フニ至ッタノデアアリマスガ其時ニ至ッテモ武力ハ日耳曼人
 種ノ方ガ強カッタガ開化ノ程度カラ云ハバ無論奪權ノ差デ羅馬ノ方ガ進ンデ

居ルノデアアル、故ニ早クモ羅馬法ガ日耳曼ノ領土ニ弘ク侵入致シマシテ、今日純粹ノ日耳曼法ト云フモノハ殆ド知ルコトガ出来ナイ、普通日耳曼法トシテ學者ガ研究シテ居ル所ノモノモ幾分カ羅馬法ガ混ツテ居ルト云フ位デアアル、併ナガラ今日歐羅巴ニ行ハレテ居ル所ノ法律ノ原則ノ中デ羅馬法カラ來ラズシテ確ニ日耳曼法カラ來ツテ居ルモノガアル、故ニ今日ノ歐羅巴ノ法律ノ源ヲ云ヘバ、羅馬法及ビ日耳曼法ノ二ツデアアルト謂ハナケレバナラス、唯日耳曼法ニハ殆ド「法典」ト稱スベキモノハナクシテ大抵慣習法カラ成立ツテ居ル、從テ羅馬法ノ如ク明瞭ナル材料ガ乏シイデアアル、是ヨリ現行ノ歐羅巴ノ法律ノ御話ヲ簡單ニ致サウト思フ、是ハ各國ノ法律ノ御話ヲ致シマシテハ殆ド際限ノナイコトデアアルカラ、單ニ佛獨英三國ノ法律ノ御話ダケヲ致サウト思フ、（註）佛獨英三國ノ御話ハ十八世紀ノ終カラ致シテ段段各國ニ「法典」ト云フモノガ出来マシテ今日デハ英吉利及ビ北米合衆國ヲ除イテハ、殆ド何レノ國ニ於テモ皆法典ガ具ツテ居ル例ヘバ、モナコノヤウナ小國カラ致シマシテ、又南亞米利加ノ白蠟、智利ト云フヤウナ新シイ國マデ皆法典ガ出来マシタ、北米合衆國デモ加奈デアアルトカ、ルイジヤナ

デアアルトカ、カリフォルニアニ「ユークチ」ド段段法典ヲ制定スルニ至ツテ居ル、ソレ故ニ今日デハ歐米諸國ハ多ク法典ヲ具ヘテ居ル、併ナガラ其系統ヲ尋ヌレバ大抵佛法系、獨法系及ビ英法系ノ此三ツニ歸スルノデアアルカラ、佛獨英三國ノ法律ノ御話ヲ致シマシテ、他ハ大抵ソレニ準ズルモノデアアル、（註）佛獨英三國ノ御話ハ先ツ第一ニ佛蘭西カラ御話ヲ致ス、法律ノ進歩ノ順序カラ云ヘバ確ニ佛蘭西ガ一番初ニ開ケテ居ル、故ニ佛蘭西カラ先キニ御話ヲ致シマシ、（註）佛蘭西ノ現行法ハ羅馬法ト日耳曼法トノ合併シタモノデアアル、法典ノ出来ルマデハ各地方法律ガ異ナラ居ツタ、即チ慣習法ガ異ナラ居ツタ、而シテ日耳曼法ノ勢力モ地方ニ依ツテハ隨分行ハレテ居ッタケレドモ、概シテ之ヲ言ヘバ羅馬法ノ勢力ノ方ガ最モ強カッタ、十九世紀ノ初ニ於テ各種ノ法典ガ出来テ今日、日本ニ於テモ六法ト云フコトヲ云ヒマス、其六法ト云フノハ諸リ佛蘭西ノ法典ノ分チ方ニ依ツタデアアル、六法ト云フノハ第一ガ憲法、第二ガ民法、第三ガ訴訟法、第四ガ商法、第五ガ治罪法、或ハ刑事訴訟法第六ガ刑法、此六ノモノヲバ六法ト云ヒマス、或ハ憲法ヲ除イテ五法ト云ヒマスケレドモ、憲法ヲ加ナルト六法トナリマス、此分

方ハ全ク佛蘭西ニ於テ始メテ行ハレタノデアアル、今日デモ歐羅巴ノ大多數ノ國ニ於テ此法典ノ分テ方ガ行ハレテ居ル、獨逸ニ於テハ多少ノ變更ヲ以テ行ハレテハ居ルケレドモ、矢張り佛蘭西ニ倣ウテ居ル、詰リ法典トシテハ佛蘭西ニ倣ハナイ處ハ殆ドナイノデアアル、故ニ法律ニ於テハ佛蘭西ガ確ニ先進國デアアル、現ニ今日ト雖モ獨逸カラ佛蘭西ニ法學ノ留學生ヲ出スガ、佛蘭西カラ獨逸ニ法學ノ留學生ハ出サス。

先ヅ六法ノ第一憲法ノ御話ヲ致シマス、成文タル憲法ノ始メテ出來タノハ千七百九十一年デアアル、是ガ彼ノ佛蘭西ノ大革命ノ際ニ出來タ第一ノ憲法、ソレカラ許多ノ變遷ヲ經テ現行ノ憲法ハ千八百七十五年以後ニ出來タモノデ、憲法ト云フ一ツノ法典ハ作ラズシテ二三ノ單行法カラ成立テ居ル。

第二ニ民法——是ハ那破翁第一世ノ時代ニ出來タモノデ、千八百三年カラ千八百四年ニ掛ケテ一部分ヅツ公布セラレマシテ、又一部分ヅツ施行セラレタノデアアル、法典トシテ完結シタノガ千八百四年デアアツテ、其時ニ始メテ民法ト云フモノガ經テ、佛蘭西デ「コード」ナボレオンニ那破翁法典ト云フノハ此民法ノ事デアアル、

獨逸人ヤ英吉利人ガ動モスルト佛蘭西ノ法典ノ全部ヲ「那破翁法典ト云ヒ」スケレドモ、ソレハ事實ニハ適テ居ルガ佛蘭西人ハ民法ノコトヲ「那破翁法典ト云ヒ」外ノモノニ「那破翁法典ト云ヒ」ナク、民法ハ「那破翁ガ親シク干渉シテ作ッタ法典デアアルガ、他ノ法典ハ殆ド其起草委員ガ編纂ヲシタノデアアル。

第三ガ訴訟法——私ガ茲ニ「訴訟法ト云フ」ハ少シ漠然タル意味デアアツテ、民事訴訟法ト裁判所構成法ヲ含マシテ言フ、大抵民事訴訟法ノ著書ハ佛蘭西デハ裁判所構成法ヲ併セテ説クコトニナツテ居ラスカラ、ソレデ之ヲ併セテ言フ、先ヅ其中デ細別致シマスルト民事訴訟法ト是ハ千八百六年ニ公布セラレテ千八百七年カラ施行セラレタモノデアアル、第二ニハ裁判所構成法、是ハ佛蘭西デハ一ノ法典トハナツテ居ラス、是ハ單行法デアアルト云フテ宜カラウト思フ、ソレハ色色變遷ヲ經タノデ、一番古イノハ千七百九十年、ソレカラ千八百八十三年マデニ色色變ツテ來テ居ル、併シ千七百九十年ノ規定デ仍ホ效力ヲ存シテ居ル部分ガアル。

第四ニハ商法ト是ハ千八百三年ニ一部分公布セラレテ他ノ一部分ハ千七百七年ニ公布セラレテ、而シテ千八百八年カラ施行セラレテ、今日デハ餘程改テハ居

チマスケレドモ矢張り此法典が大體ニ於テ行ハレテ居ル會社法、破産法ナドニ
 全ク改テ居ルノデスケレドモ、其他ノ部分ハ殆ド其儘アル一箇ニテハ千八百
 第五ニハ治罪法、或ハ刑事訴訟法ト云フモ宜イ是ハ千八百八年ニ公布セラレ
 タ、ソレガ現在行ハレテ居ル法ニテハ千八百八十三年ニ改テ居ルニテハ千八百
 第六ニハ刑法ト是ハ千八百十年、尤モ其後大ニ改正セラレテ居ルガ、全ク改テ
 譯デハナイニテハ千八百二十年ニハ民法ニハ佛蘭西ニハ一ノ法典イ
 此ノ如クデアツテ佛蘭西ノ法典ハ皆古イ、大概百年前後モ經テ居ル、從テ今日カラ
 見レバ不完全ナルコトガ多イ、否、當時ニ於テ既ニ不完全デアツタ、何トナレバ那
 破翁ガ非常ニ急イデ編纂セシメタ法典デスカラドウシテモ缺點ガ多イ、幸ニ裁
 判例ト學說ヲ以テ之ヲ補ウテ居ルカラ、今日實際差支ナク行ハレテ居ルニテハ
 次ニ第二ニハ獨逸ト獨逸モ矢張り佛蘭西ト同ジヤウニ羅馬法ト日耳曼法ト二ツ
 合シテ今日ノ法律ヲ成シテ居ル、併シ日耳曼ト云フト今日ノ獨逸ニ當ルヤウデ
 スカラ、獨逸ニハ日耳曼法ガ餘計ニ行ハレテ居ラウト云フ想像ガ起リマスケレ
 ド、實際ハオウデナイ、羅馬法ノ勢力ガ最も強イ、現行行ハレテ獨逸帝國民法ノ施

行セララルマデハ一般法トシテハ羅馬法ガ其儘行ハレテ居ラド位デアアル、併シ今
 日デハ段段法典ガ出來マシテ最後ニ獨逸帝國民法ガ出來マシタカラ、獨逸帝國
 ノ法典ト云フモノガ總テ具ダト云フテ宜シイ、
 第一ニ憲法。ハ千八百七十一年ニ出來タ、是ガ今ノ帝國憲法佛蘭西ニ勝ツト云フ
 ト直グニ出來タ
 第二ガ民法。是ハ千八百九十六年ニ出來テ、千九百年一月一日ヨリ施行セラレ
 タ
 第三ニハ商法。是ハ舊ト千八百六十一年ニ出來マシテ其當時ハマダ獨逸帝國
 ト云フモノガ出來ス時デスカラ、獨逸各聯邦カラ委員ヲ出シテ編纂セシメテ、ソ
 レヲ各國デ各法律トシテ公布シタノデアル、實際或些細ナ例外ヲ餘ク外ハ同一
 ノ法律ガ行ハレテ居リマスケレドモ、併シ形ノ上ニ於テハ各聯邦各別別ノ商法
 ガ行ハレテ居ラ、然ルニ獨逸帝國ガ成立致シマシタカラ、商法ト云フモノハ獨逸
 帝國ノ法律トナラ一般ノモノトナリ、而シテ千八百九十七年ニ民法ヲ制定ト同
 時ニ必要ナル改正ヲ加ヘマシタ、即チ現行法ハ千八百九十七年ノ法デアリ

第四ニハ手形法。獨逸デハ手形法ガ特別ノ法典トナツテ居ル是ハ矢張り商法ト同一ノ沿革ヲ以テ千八百四十八年ニ出來タ、ソレガ其儘獨逸帝國ノ法律トナツテ、今日猶ホ行ハレテ居ル。

第五ニハ民事訴訟法。是ハ千八百七十七年ニ出來タモノゾ、ソレガ千八百九十八年ニ民法ノ制定ノ結果デ改正セラレテ居ル。

第六ガ裁判所構成法。是モ千八百七十七年ニ出來タモノゾ、ソレガ千八百九十八年ニ民法ノ制定ノ結果デ改正セラレテ居ル。

第七ガ破産法。是モ千八百七十七年ニ出來タ、併ナガラ此破産法モ民法制定ノ結果トシテ千八百九十八年ニ改正セラレテ居ル。

第八ガ刑法。是ガ千八百七十一年ニ出來テ、ソレガ猶ホ行ハレテ居ル。

第九ガ刑事訴訟法。千八百七十七年ニ出來テ居ル、即チ民事訴訟法、裁判所構成法、破産法ナドト一緒デス。

此ノ如ク獨逸デハ法典ガ最早スツカリ完全シテ居ル。

第三ガ英吉利。英吉利ハ大抵不文法、而シテ今日猶ホ封建時代ノ法律ガ勢力ヲ占メテ居ル、所謂「コンモンロー」普通法ト云フモノハ封建時代ノ法律ノ遺物デ

ス、併ナガラ成文法モマルキリナイデハナイ、例ヘバ「コモンロー」普通法ト云フモノハ大抵不文法、而シテ今日猶ホ封建時代ノ法律ガ勢力ヲ占メテ居ル、所謂「コンモンロー」普通法ト云フモノハ封建時代ノ法律ノ遺物デス、併ナガラ成文法モマルキリナイデハナイ、例ヘバ「コモンロー」普通法ト云フモノハ大抵不文法、而シテ今日猶ホ封建時代ノ法律ガ勢力ヲ占メテ居ル。

第一憲法。憲法モ大部分ハ不文法デスケレドモ、併シ第一ニ名高キマダナ、カルクト云フモノガアル、千二百十五年ニ出來タ、次ニ「ハニブル、オプ、ライツ」直譯ニシマスト權利法トデモ云フカ、是ハ千六百八十九年ニ現在ノ王室ガ出來タ初ニ公布ニテツタモノデアアル、此等ガ憲法上ノ成文デアラ、其他ハ不文法、即チ慣習法カラ成立ツテ居ル。

第二ニハ訴訟法。訴訟法ハ成文ガアル、ジエチカチユル、アクトト云フモノガアル、千八百七十三年ニ出來タモノデアアル、特別ノ法律ハ其外ニ成文ノモノモアリ、マスケレドモ、歐羅巴大陸ノ法典ト匹敵スベキモノハ殆ド斯様ナモノデアアル。

第三ニ刑法。是モ現在ハ矢張り慣習法カラ成立ツテ居ル、或ハ特別ノ單行法カラ成立ツテ居ル、之ヲ法典トシタイト云フコトヲ學者、政治家ナドガ考ヘマシテ草案ハ屢出來タ、先ヅ第一ノ草案ハ千八百三十四年乃至千八百四十五年ニ之ニ關スル委員ガ報告ヲ爲シテ居ル、ソレカラ次ニハ千八百四十五年カラ千八百四十九年ニ又第二ノ委員ノ報告ガアル、終ニ千八百七十九年ニ名高イ法律學者ステイ

「アン」云フ人ノ起草致シマシタ刑法ノ草案ガアル併シソレハトウトウ法律典ト爲ラズシテ今日ニ至テ居ルルモ夫レニハ八百四十五條ニ至テ八百四十七條ノ新様ナル譯テ英法ハ今日猶ホ大部分慣習法デアツテ又成文法モ大抵法典ト稱スルモノガナクシテ單行法ノミデアアル而シテ法律ノ系統ヲ云ヘバ大陸ノ法律トハ殆ド別ナモノデアツテ餘程趣ガ違フテ居ルガ爲メ我邦ニ於テモ英法ヲ模範トスルト云フコトガ殆ド出來ナカッタノデアアル我邦ノ今日ノ法律ハ多ク大陸法ヲ模範トシテ居ル

以上ニテ法律ノ沿革ヲ説キ終リマシタ

第十一章 法律ノ解釋

法律ノ解釋ノ事ニ付テハ學者間ニ色色議論ガアリ又實際隨分ムヅカシイ問題デアアル此事ニ付テハ私ガ昨年ノ二月ノ太陽ノ第九卷第二號ノ五十六頁以下ニ論ジテ居ル所ガアリマスカラドウゾ御覽ヲ願ヒタイ之ニ付テハ色色主義ガアル大別致シマスルト云フト三ツアラウト思フ第一ハ專ラ法律ノ字句ニ依ツテ解

ヲ拋棄スルコトヲ得ルモノナリ例ヘハ債務者カ期限ノ到來前ニ其債務ノ履行ヲ爲シタルガ如シ其理由ハ一般ニ自己ノ利益ハ他人ノ利益ヲ害セサル以上ハ自由ニ之ヲ拋棄スルコトヲ得ルモノナルガ爲メナルヘシ然レドモ期限ノ利益ヲ拋棄シタルガ爲メニ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ヌ故ニ例ヘハ甲カ乙ヨリ利息附ニテ金錢ヲ借受ケタル場合ニ於テ債務者ノ利益ノ爲メニ返済期限ヲ定メタルトキハ債務者ハ其期限前ニ於テ何時ニテモ返金スルコトヲ得ヘシ然レドモ之ガ爲メニ債權者ノ利益ヲ害スルコトヲ得ヌ即チ債權者カ利息ヲ得ルノ目的ヲ以テ貸金ヲ爲シタル場合ニ於テハ債務者ハ債權者ニ對シ期限到來マテノ利息ヲ支拂ハサルヘカラス

右ノ如ク期限ノ利益ハ債權者タルト債務者タルトヲ問ハズ各受益者ニ於テ之ヲ拋棄スルコトヲ得ルモノナリ而シテ我民法ニ於テ債務者ニ付テハ尙ホ此他自己ノ意思ニ反シテ期限ノ利益ヲ失フコトヲ即チ左ニ列舉スル場合ニ於テハ債務者ハ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ得ヌ(第三三七條)

(4) 債務者カ破産ヲ宣告ヲ受ケタル時キ餘益ヲ主張スルコトヲ得ヌ

破産ノ場合ニ於テモ仍舊債務者カ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ得ルモノトスルトキハ各債權ハ其期限ノ到来スルヲ辨濟受クテ得サルノ結果ト爲リ破産手續ヲシテ永ク繼續セシムルノ不便アリ又債權額ヨリ期限到来マテノ利息ヲ控除スルモノトスルトキハ其計算極メテ煩雜ニシテ破産手續上甚ク不便ナルヲ以テ債務者ヲシテ期限ノ利益ヲ喪失セシム舊商法第九八八條第一項ノ規定ニ依リテ之ヲ減少シタルトキ對辦者ニ據リ破産手続ニ於テハ債務者ハ自己ノ行爲ニ因リ債權者ノ信用ヲ失ヒタルモノトシテ其結果債權者カ最初債務者ニ期限ノ利益ヲ與ヘタル意思ニ反スルニ至リタルモノナリ故ニ此場合ニ於テモ債務者ヲシテ期限ノ利益ヲ喪失セシム

(ハ) 債務者カ擔保ヲ供スル義務ヲ負フ場合ニ於テ之ヲ供セザルトキ甲乙ニ此場合ニ於テ債務者カ法律上期限ノ利益ヲ失フハ前ノ(ロ)ニ於テ述ヘタルト同一ノ理由ニ因ルモノナリ故ニ之ヲ減少シタルトキ對辦者ニ據リ破産手続ニ於テハ債務者ハ自己ノ行爲ニ因リ債權者ノ信用ヲ失ヒタルモノトシテ其結果債權者カ最初債務者ニ期限ノ利益ヲ與ヘタル意思ニ反スルニ至リタルモノナリ故ニ此場合ニ於テモ債務者ヲシテ期限ノ利益ヲ喪失セシム

第二章 期間

既ニ緒言ニ於テ述ヘタルカ如ク私權ハ種種ナル法律上ノ事實ニ因リテ發生變更又ハ消滅スルモノナリ然レトモ其事實中總テノ權利ノ發生變更消滅ニ共通ナルモノハ法律行爲及ヒ時ノ經過ノ二ナリト信ス而シテ法律行爲ノ事ニ付テハ既ニ前章ニ於テ之ヲ述ヘタルヲ以テ是ヨリ他ノ一ナル時ノ經過ニ付キ述フヘキ順序ナリ然ルニ時ナルモノハ其レ自身ニ於テ法律上ノ事實タルノミナラス又他ノ事實ト相待テテ法律上種種ノ效力ヲ生スルモノナリ例ヘハ法律行爲ヲ取消スノ意思表示ハ一定ノ時間内ニ之ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ其時間以後ニ於テハ之ヲ爲スモ何等ノ效力ヲ生セザルモノナリ或ハ甲カ乙ニ對シテ物ノ所有權ヲ移轉スル契約ヲ爲シタルモ其所有權ハ契約ノ日ヨリ一定ノ時間經過シタル後ニ移轉スヘキコトヲ約シタルカ爲メ其契約ハ一定ノ時間經過シタル後ニ所有權移轉ノ效力ヲ生スルコトアリ或ハ又權利ヲ行使セザルカ又ハ行使スル狀態カ一定ノ時間繼續シタルカ爲メ權利喪失ノ效力ヲ生スルコト

アリ故ニ于ハ時ノ經過ヲ研究スル前ニ於テ先ツ時ノ計算法ニ付キ説明スヘシ
 舊民法ニ於テハ時ノ計算法ニ關シテハ單ニ時數ニ付テモ規定セリ又舊商法
 ニ於テハ唯契約上ノ期間ニ付テノミ計算法ヲ規定セリ然ルニ未タ一般ノ時
 計算法ヲ定メタルモノナカリシカ如シ新民法ニ於テハ其總則編ニ於テ特ニ期
 間ナル標題ヲ設ケテ一般ニ時ノ計算法ニ關スル規定ヲ爲セリ
 期間トハ一ノ時ヨリ他ノ時ニ至ル一箇ノ限定セラレタル時間ヲ謂フ而シテ此
 期間ハ法令ノ規定ニ依リテ定メラルル場合アリ或ハ裁判上ノ命令又ハ法律行
 爲ニ依リテ定メラルル場合アリ又期間ハ法律行爲ヲ爲ス爲メニ定メラルル場
 合アリ然ラサル場合アリ
 期間ハ年、月、週、日又ハ時ヲ以テ定ムルコトヲ得而シテ之ヲ定ムル方法ニモ二種
 アリ即チ或ハ特定ノ日時ヲ指定シテ期間ヲ定ムルコトヲ得或ハ一定起算點ヨ
 リ期間經過滿了ノ爲メニ要スル時間ヲ示シ以テ其期間ヲ定ムルコトヲ得ヘシ
 例ヘハ明治三十七年一月一日ヨリ同年五月二十日マテニ債務ヲ履行スルコト
 ヲ要スト云フカ如ク或ハ又人ハ出生後滿二十箇年ヲ經過スルトキハ成年ニ達

スト云フカ如クハ
 期間ヲ計算スルニ付テハ法令裁判所ノ命令又ハ法律行爲ニ於テ特ニ之ヲ規定
 スル場合アリ此場合ニ於テハ其特別ノ規定ニ依リテ期間ヲ計算スヘキモノナ
 リ然レトモ若シ此ノ如キ別段ノ規定ナカリシトキハ期間ノ計算法ニ付キ種種
 ノ問題ヲ生ス故ニ民法ハ此場合ニ關シテ適用スヘキ期間ノ計算法ヲ定ム(第一
 三八條)
 期間ヲ計算スルニ二ノ方法アリ一ヲ曆法の計算法ト謂ヒ他ノ一ヲ自然的計算
 法ト謂フ曆法の計算法トハ曆日一日ヲ單位トシテ期間ヲ計算スル方法ヲ謂ヒ
 又自然的計算法トハ期間ヲ計算スルニ方リ曆日一日ヲ尙ホ細分シテ即時ヨリ
 之ヲ起算スル方法ヲ謂フ故ニ曆法の計算法ニ於テ一日トハ常ニ午前零時ヨリ
 午後十二時マテヲ謂ヒ之ニ反シテ自然的計算法ニ於テ一日トハ即時ヨリ起算
 シテ二十四時ニ至ルマテヲ謂フ例ヘハ今日ノ午前八時ヨリ明日ノ午前八時マ
 テト云フカ如ク又今日ノ午後一時三十分ヨリ明日ノ午後一時三十分マテト云
 フカ如ク

曆法の計算法ト自然的計算法ト孰レカ可ナルヤヲ考フルニ各利害得失アリ先
 ヲ計算上ノ精密ナル點ヨリ言ヘバ曆法の計算法ハ自然的計算法ニ及ハス例ヘ
 ハ今日ノ午後五時ニ甲カ乙ト契約ヲ爲シ三日内ニ或行爲ヲ爲スヘキコトヲ約
 シタルトキハ此三日ノ期間ハ若シ期間ノ初日ヲ算入スルモノトスレバ明後日
 ノ午後十二時ヲ以テ滿了ス又若シ其初日ヲ算入セザルモノトスレバ明後日
 ノ午後十二時ヲ以テ滿了ス故ニ曆法の計算法ニ依レバ今日ノ午前八時ニ同
 ノ契約ヲ爲スモ又午後五時若クハ十時ニ其契約ヲ爲スモ期間滿了ノ點ニ至リ
 テハ何レモ皆同時ナリ然ルニ自然的計算法ニ依レバ即時ヨリ起算スヘキモノ
 ナルカ故ニ午前八時ニ契約スルト午後五時若クハ十時ニ契約スルトハ期間滿
 了ノ時期同一ナラス故ニ自然的計算法ハ曆法の計算法ニ比シ精密ナルモノト
 謂フコトヲ得ヘシ然レトモ自然的計算法ハ此ノ如ク精密ナル計算法ナルモノト
 ハラス通常ノ場合ニ於テハ當事者ノ希望ニ適セザルモノナリ何トナレハ通常
 當事者カ取引ヲ爲スニ當リ三日又ハ五日ト云フトキハ二十四時ノ三倍又ハ五
 倍ナルコトヲ考フルモノニ非ス寧ロ曆日三日若クハ五日ヲ考フルヲ例トス加

之自然的計算法ナルモノ多クノ場合ニ於テハ實際ノ便宜ニ適セス何トナレ
 ハ實際上或事實ノ發生シタルハ何年何月何日ナルヤヲ知ルコトハ格別困難ナ
 ルコトニ非カルモ何日ノ何時何分ニ其事實發生シタルヤヲ知ルコトハ極メテ
 困難ナルコトナリ然ルニ自然的計算法ニ依リテ期間ヲ計算スルニハ必ス其起
 算點ト爲ルヘキ制限ヲ審査セザルヘカラス而シテ多數ノ場合ニ於テハ或期間
 カ數時間前ニ滿了スルト數時間後ニ滿了スルトハ當事者ニ格別影響アルモノ
 ニ非ス唯其滿了ノ時カ正確ニ確定スルコトヲ得レハ満足スルモノナリ故ニ事
 實ノ發生シタル時刻ヲ困難ヲ極メテ之ヲ調査シテ之カ期間ヲ計算スルノ必要
 ナシ是レ實際毫モ利益ナクシテ往往努力ヲ要スルモノニ過キス故ニ自然的計
 算法ハ通常ノ場合ニ於テハ不適當ニシテ寧ロ曆法の計算法ニ依ルヲ適當トス
 然レトモ或例外ノ場合ニ於テハ期間ヲ定ムルニ精密ナル時ヲ以テシ又之ヲ計
 算スルニ精密ナル計算法ニ依ラザルヘカラサルモノアリ此人如キ場合ニ於テ
 ハ曆法の計算法ニ依ルヲ願ル不完全タルコトヲ免レス故ニ自然的計算法ニ依
 リテ期間ヲ計算スルヲ相當トシ我民法ノ規定ニ依リテ原則トシテ曆法の計算

法ニ依リテ期間ヲ計算スヘキモノトセリ其理由ハ前ニ述ヘタルカ如ク曆法の計算法ナルモノハ自然的計算法ニ比シ不精密ノモノナルモ通常ノ場合ニ於テハ當事者ノ希望ニ適合スルノミナラス實際ノ便宜ニ相當スルカ故ナルベシ即チ我民法上期間ヲ定ムルニ日・週月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆法の計算法ニ依リテ期間ヲ計算スヘキモノトシ唯例外トシテ期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ自然的計算法ニ依ルヘキモノトセリ第一三九條ノ規定ハ自然的計算法ニ付テハ此他別ニ述フヘキモノトナシ然レドモ曆法の計算法ニ付テハ其起算日・満期日及ヒ計算ノ方法等ニ付テ尙ホ述フル所アルヘシ

既ニ述ヘタルカ如ク曆法の計算法ハ曆日一日ヲ原位トシ自然的計算法ノ如ク更ニ之ヲ細分スルモノニ非ス故ニ若シ其期間カ曆日ノ中間例ヘハ午前八時若クハ午後五時ヨリ始マルモノトスルトキハ其初日ヲ算入スヘキモノナリヤ否ヤノ問題ヲ生ス即チ期間ノ初日ハ二十四時ニ滿タサルニ拘ハラズ之ヲ一日トシテ計算スヘキモノナリヤ或ハ初日ヲ算入セスシテ翌日ヨリ起算スヘキモノナリヤ是レ立法上一ノ問題ナルベシ彼ノウ・ランド・シ・イト民ノ説ク所ニ依レバ

羅馬法ニ於テハ初日ヲ算入スヘキモノトセタルカ如シ我國ニ於テモ予ノ解スル所ニ依レハ明年三十五年法律第五十號年齡計算ニ關スル法律ハ亦羅馬法ノ如ク初日ヲ算入スヘキモノト爲セルカ如シ是レ或ハ年齡ニ關スル期間ハ成ルヘク其經過ヲ早ムルコト各人ノ利益ト爲ルノ理由ニ基ケルモノナルヘシ然ルニ我民法ニ於テハ期間ヲ定ムルニ日・週月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ヲ算入セザルヲ以テ原則トセリ但其期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ例外トシテ其初日ヲ算入スヘキモノトセリ第一四〇條ノ規定ハ期間ノ其末日ノ右ノ起算點ト反對ニ其滿了スル時ハ何時ナリヤ即チ期間ノ末日ノ始ナリヤ將タ終ナリヤ單純ニ理論ヨリ言フハ期間ノ末日カ既ニ始マルモ未タ終ラズセザル間ハ其期間終了セザルモノナルコトハ當然言フ可ク然レドモ所ナリ然レトモ立法例ヲ觀ルニ或特別ナル場合ニ於テハ立法者ハ或ハ期間ノ末日ノ始ヲ以テ期間ノ滿了ト爲ス旨ヲ規定スルモノアルカ如クラ・シ・イト民ノ説ニ依レハ羅馬法ニ於テモ例外トシテ期間ノ末日ノ始ヲ以テ其期間滿了シタル場合アリタルカ如シ故ニ此點ニ付テ或ハ明文ヲ設ケルノ必要アリ故ニ我民法ハ明

ハ三期間ヲ定ムルニ日、週月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ末日ハ終了ヲ以テ期間ヲ満了トスル旨ヲ規定セリ(第一四一條) 又ハ其間滿了等ハ其間合マテ期間ノ末日ニ付テハ尙ホ言スヘキコトアリ即チ期間ノ末日カ大祭日、日曜日又ハ其他ノ休日ニ當リ其日ニ取引ヲ爲サザル慣習アル場合はナリ此場合ニ於テ期間ハ普通ノ場合ノ如ク其末日ノ終了ヲ以テ満了スヘキモノナリ否ヤ若シ果シテ然ラズモ實際上ハ期間ニ日短縮セラレタルト同一ノ結果ヲ生ス隨テ期間滿了ノ爲メニ不利益ヲ受クル當事者ニ取引ヲハ頗ル勵ニ失スルモノト謂ハラルヘカラス故ニ我民法ニ於テハ此ノ如キ場合ニ於テハ期間ハ其末日ノ翌日ノ終了ヲ以テ満了スル旨ヲ規定セリ(第一四二條) 又ハ其間合マテハ附次ニ曆法の計算法ノ場合ニ於ケル期日ノ計算法ニ付キ言スヘシ但等シク曆法の計算法ノ場合ニ於テモ日ヲ以テ期間ヲ定メタルトキハ別ニ述フヘキコトナキカ故ニ週月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタルトキニ付テハ述フヘシ期間ヲ定ムルニ週月又ハ年ヲ以テシタルトキニ如何ニ計算スヘキモノナリキ例ヘハ或週ノ水曜日ニ於テハ週内ニ債務ヲ履行スルコトヲ約シタルトキハ其期間

ハ次週ノ土曜日ニテ終了スルヤ否ヤノ疑アリ又期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ其期間ハ三十日又ハ三百六十五日ヲ以テ満了スヘキモノナリ又否ヤノ疑アリ我民事訴訟法ニ於テハ一箇月ノ期間ハ三十日トセリ又ザルシブルグ氏ノ言フ所ニ依レハ羅馬法ニ於テハ一箇月ハ三十日、一年ハ三百六十五日ト爲シタルカ如シ然レトモ我民法ニ於テハ之ト異ナリ期間ヲ定ムルニ週月又ハ年ヲ以テシタルトキハ常ニ曆ニ從ヒテ計算スヘキモノナリ第一四三條第一項故ニ例ヘハ等シク一箇月ト云フ場合ニ於テモ或ハ二十八日ナル場合アリ或ハ三十日若クハ三十一日ナル場合アリ 又ハ其間滿了等ハ其間合マテ右ノ如ク我民法上期間ヲ定ムルニ週月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算スヘキモノナリ而シテ曆ニ從ヒテ計算スルニ當リ期間カ週月又ハ年ノ初ヨリ起算スヘキモノナレハ其計算ハ極メテ容易ナリ即チ日曜日ヨリ起算シテ土曜日ニ至ルハ二週ナリ一日ヨリ起算シテ二月ナレハ二十八日其他ノ月ナレハ三十日又ハ三十一日ニ至ラハ一箇月ナリ又一月一日ヨリ起算シテ十二月三十一日ニ至ラハ一年ト爲ル故ニ我民法ニ於テモ此ノ如キ場合ニ付テハ何

等ノ明文ヲ設ケス然レキモ之ト反對ニ期間カ週月又ハ年ノ中途ヨリ始マルトキハ曆ニ從ヒテ計算スルニ如何ニスヘキヤノ疑生スヘシ故ニ此點ニ付テハ民法ニ特別ノ明文アリ即チ週月又ハ年ノ初ヨリ期間ヲ起算セラルトキハ其期間ハ最後ノ週月又ハ年ニ於テ其起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了スルモノトセリ第一四三條第二項例ヘハ或週ノ水曜日ニ於テ一週間ナル期間ヲ定メタルトキハ其期間ハ初日ヲ算入セズ水曜日ヨリ起算スルヲ以テ次週ノ水曜日ヲ以テ滿了スヘク又或月ノ十日ニ一箇月ノ期間ヲ定メタルトキハ翌月ノ十日ヲ以テ其期間滿了スヘク又或年ノ五月二十日ニ一箇年ノ期間ヲ定メタルトキハ翌年五月二十日ヲ以テ其期間滿了スヘシ但月ニハ三十日ナルモノトアリ三十日ナルモノトアリ又二十八日二十九日ナルモノトアリ隨テ各月同一ナリト附スコトヲ得ス故ニ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ起算日ニ應當スヘキ日ノ存在セザル場合アリ此ノ如キ場合ニ於テハ最後ノ月ノ末日ヲ以テ滿期日ト爲スヘキモノナリ第二四三條第二項但書例ヘハ一月三十日ニ一箇月ノ期間ヲ定メタルトキハ其期間ハ一月三十一日ヨリ起算スルヲ以テ二月ニハ其應

究ヲ要ス獨逸多數ノ學者ハ主タル物トハ合成物ノ物質上ノ基礎ヲ構成スルモノヲ謂フト主張セリワグンドシャイド氏ノ如キハ如何ナル物カ主ナルカノ問題ニ答ヘントセム合成物ノ本體ハ何ナリヤヲ觀察シテ其本體ニ該當スル物ハ即チ主タル物ナルヲ知ルヘク他ノ物ノ爲メニ存在スル物ハ從タル物ナリト謂ハサルヘカラストセリ附合ノ結果物ノ所有權カ消滅シタルトキハ其物ノ上ニ存セル他ノ權利例ヘハ質權留置權等モ亦消滅ス然レトモ物ノ所有者カ附合ニ因リテ存セル合成物ノ單獨所有者ト爲リタルトキハ其物ノ上ニ存セル權利モ亦存續ス若シ合成物カ共有ト爲リタルトキハ其權利ハ持分ノ上ニ存スルニ至ル(第二四七條)

第五款 混和

佛蘭西法系ノ法典ニ於テハ混和及ヒ製作ヲ以テ附合ノ一ト爲シ皆同一ノ法律關係ヲ以テ之ヲ規定セリ理論上其當ヲ得ナルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ理論トシテ附合混和又ハ製作ハ全ク異ナリタル事實ニシテ其事實ニ對シテ法律上

ノ效果ヲ付シタルモノナルカ故ニ之ヲ同一ノ關係ニ於テ認ムルコトハ適當ニ非ス我民法ハ第二百四十五條ニ於テ混和ノ場合ニハ附合ノ規定ヲ適用スト云ハスシテ之ヲ準用スト爲セルヲ以テ觀ルモ其關係ノ同一ナラザルコトヲ認メタルヲ知ルニ足ル

混和ハ之ヲ別テテ混同(コンフラージロ)ト混淆(コンミツキスチア)ト二ト爲スコトヲ得混同トハ各別ノ所有者ニ屬スル流動體カ合併シタル場合ヲ謂ヒ混淆トハ各別ノ所有者ニ屬スル固形體ノ混シタル場合ヲ謂フ羅馬法ニ於テハ混同ノ場合ニ其混同物カ夥多ノ費用ヲ要セスシテ容易ニ現狀ニ分離セシムルコトヲ得ル場合ト然ラザル場合トニ區別シ前ノ場合ニ於テハ混同ノ爲メニ所有者ノ消滅得喪ノ效果ヲ生セシムルコトナシ隨テ此場合ニハ混同物ノ所有者ハ自ラ其分離ヲ企ツルコトヲ得ヘク若シ混同物ヲ占有セザルトキハ分離ヲ請求シ得ヘシ又混同物ヲ分離スルニ夥多ノ費用ヲ要スルカ若クハ分離シ得サル場合ハ其混同物ハ各所有者ノ共有ニ屬スルモノトセリ而シテ其共有ノ持分ハ混同シタル時ノ現狀ノ價格ノ割合ニ依リテ定マレモノトセリ例ヘハ甲ノ有セル酒

五升ト乙ノ有セル味醂四升ト混シタル場合ニ酒ハ一升四十錢ニシテ味醂ハ一升五十錢ナリトモ甲及乙ノ持分ハ平等ト爲ルカ如キ是ナリ
混合トハ流動體ノ合併スルニ非スシテ各別ノ所有者ニ屬スル固形體例ヘハ果實穀物ノ如キ物ノ互ニ混合シタル場合ヲ謂フ之ニ付テハ所有權得喪ノ效果ヲ生セシメザルコトヲ原則トセリ即チ混合物カ容易ニ識別シ得ヘキ場合ニハ固ヨリ各所有者カ其物ヲ分離シ得ヘク隨テ所有權ヲ消滅セシムル理由ト必要トヲ認メス例ヘハ甲ノ有スル林檎ト乙ノ有スル柿トノ混シタルカ如シ之ニ反シテ其兩者ノ區別ノ判明シ得サル場合例ヘハ甲ノ有スル米ト乙ノ有スル米ト相混シタルトキハ羅馬法ニ於テハ裁判官カ甲乙兩者ノ從來有セシ數量ニ應シテ之カ分割ヲ命シ始メテ各自カ其物ノ所有權ヲ取得スヘキモノトセリ即チ此場合ハ裁判官ノ裁定ニ依リテ所有權ヲ得ルモノニシテ混淆ニ因リテ權利ヲ取得シタルニ非ス然レトモ右ノ規定ハ太ク理論ニ馳セ形式ニ拘泥シ實際ニ不便ナリシカ故ニ後ニハ裁判官ノ裁定ヲ要セスシテ各所有者ハ混淆當時自己ノ所有セシ數量ニ適當セルモノニ付キ所有權ヲ取得セシムルコトト爲レリ獨逸普通

法ニ於テモ混和ニ關シテハ羅馬法ト異ナルコトナシ獨逸民法ニ於テハ混同ト混滑トノ區別ヲ認メス唯二物カ混和シテ別ツコトヲ得サルトキ及ヒ混和物ヲ分離スルニ過分ノ費用ヲ要スル場合ニハ原則トシテ混和物ハ共有物ト爲リ若シ其混和物ノ狀態カ主從ノ區別ヲ認メ得ヘキ場合ニ於テハ主タル物ノ所有者カ混和物ノ所有者ト爲ルコト猶ホ附合ノ場合ト異ナルコトナシ我民法モ殆ト之ト同一ノ規定ヲ設ケテ各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ物カ混和シテ一方ノ所有者ノ有シタル部分ヲ區別スルコト能ハサルトキハ若シ其混和物ニ付キ主從ノ區別ヲ爲シ得ヘキ場合ニハ主タル物ノ所有者ニ混和物ノ所有權ヲ取得セシメ從タル物ノ所有者ニ其所有權ヲ消滅セシメ若シ其混和物カ主從ノ區別ヲ爲シ得サルトキハ兩者ノ共有ニ屬セシム

第六款 果實ノ取得

法定ノ果實ハ法律行爲ニ因リテ取得スルモノナルカ故ニ茲ニ説明スヘキモノニ非ス茲ニハ單ニ天然果實ニ付キ所有權取得ノ原因タル事實ヲ説明スヘシ

天然ノ果實ハ未タ其元物ヨリ分離セサルトキハ元物ノ一部ヲ構成スルモノナルカ故ニ法律上ノ運命ハ元物ト共ニセサルヘカラス唯果實カ母體ヨリ分離シテ獨立ノ一物ト爲リタル以上ハ別箇ノ所有權ノ目的ト爲ルモノニシテ母體ト關係ナク獨立シテ法律上ノ運命ニ支配セラルヘキモノナリ

天然果實カ元物ヨリ分離シタルトキハ何人カ其物ノ所有權ヲ有スヘキカ民法第八十九條ニハ果實ヲ收取スル權利ヲ有スル者ノ所有ニ屬スト規定セリ果實ヲ收取スル權利ヲ有スル者トハ換言スレハ元物ノ收益權ヲ有スル者ニシテ例ヘハ所有者善意ノ占有者永小作權者地上權者質權者留置權者賃借人等ノ如シ獨逸普通法ニ於テハ他人ノ土地ヲ使用シ收益スル權利ヲ有スル者ニ果實取得ニ付キ種種ノ區別ヲ爲セリ例ヘハ永小作權者ハ土地所有者ト同シク果實ノ分離ヲ以テ直チニ其所有權ヲ取得スレトモ賃借人ノ如キハ果實ヲ採取スルコトニ因リテ始メテ所有權ヲ取得スルモノトセリ故ニ其果實ヲ竊取セラレタル場合ニ於テハ果實ノ所有權ハ賃借人ニ屬セスシテ土地所有者ニ屬セシム獨逸民法ニハ永小作權、地上權等ノ權利ヲ有スル者ハ其物ノ產出物ノ分離ニ因リテ其所

有權ヲ取得スレトモ所有者カ分離ノ後ニ自己ニ屬スヘキ果實ノ取得ヲ他人ニ許シタル場合ニ於テハ果實ヲ採取スヘキ權利者ハ其物ヲ占有スルニ因リテ始メテ所有權ヲ取得スルモノトセリ我民法ハ天然果實ハ總テ元物ヨリ分離スル時ニ之ヲ採取スル權利ヲ有スル者ニ屬スト規定セルカ故ニ永小作權者ハ勿論他上權者賃借人ト雖モ自ラ之ヲ採取シテ始メテ所有權ヲ得ルニ非スシテ果實カ母體ヨリ分離シタルトキハ直チニ其所有權ヲ得ルモノナリ故ニ第三者カ其分離シタル果實ヲ竊取シタルトキハ賃借人又ハ地上權者ハ竊取者ニ對シテ所有物返還ノ訴ヲ起スコトヲ得ヘシ

第七款 時效

時效トハ法定ノ期間一定ノ占有ヲ爲スコトニ因リテ所有權取得ノ效果ヲ生セシムルモノナリ時效ノ制度ハ時ノ經過ニ因リテ占有者ニ物ノ所有權ヲ取得セシムルモノニ非ス何トナレハ法定ノ期間占有ヲ繼續スルモ占有物ノ所有權ヲ取得セシメサルコトアレハナリ即チ時效ニハ時ノ經過及ヒ一定ノ性質ヲ有ス

實施サレタル緊要ナルモノナリ今五箇國條約北亞米合衆國トノ條約ノ大要ヲ

舉クレハ左ノ如シ

- 一 相互ニ公使及ビ領事ノ派遣ヲ爲スコト
- 二 日本ト歐羅巴ノ或國家トノ間ニ爭議ノ起リタルトキ北亞米利加合衆國之カ仲裁ノ任ニ當ルコト
- 三 兩館神奈川長崎新潟兵庫ノ五港並ニ江戸大阪ヲ開市場ト爲スコト
- 四 關稅ノ取立ニ關スルコト
- 五 領事裁判權ニ關スルコト
- 六 亞米利加人カ日本ノ開港場近傍十里ヲ限リ旅行スルヲ得ルコト又日本カ亞米利加人ヲ追放スルヲ得ルコト
- 七 信教ノ自由ニ關スルコト
- 八 犯罪人ノ引渡並ニ逃走海員ノ引渡ニ關スルコト
- 九 貨物ノ賣買箇人ノ雇入ニ關スルコト

十 此條約ノ有効期間ヲ千八百七十二年(明治五年)マテトスルコト
 其後萬延元年ニ葡萄牙並ニ普瀾西トノ間ニ條約ヲ締結アリ文久三年ニハ瑞西
 トノ間ニ條約ヲ締結アリ又慶應二年ニハ改稅約定ナルモノニ依リテ從來ノ稅
 率ヲ低減シ日本ニ輸入スル貨物ニ平均五分ノ低稅ヲ課スルコトト爲シタリ是
 レ蓋シ日本カ約定シタル開港ノ運延ニ對スル報酬トシテ與ヘラレタルモノナ
 リ此約定ハ日本ノ關稅收入ニ對スル極メテ大ナル打撃ナリ同年ニハ更ニ白耳
 義伊太利、丁抹トノ間ニ條約ヲ締結シタリ其他競馬場ニ關スル約定病院葬地
 ニ關スル約定モ亦屢締結セラレタリ明治ノ初年ニ始メテ締結セラレタル條約
 ニ瑞典那威トノ間及ヒ西班牙トノ間ノモノ是ナリ明治二年ニ結ハレタル條約
 中最モ注意スヘキモノニ箇アリ一ハ澳太利トノ間ノ條約ニシテ此條約ニ依リ
 テ萬國ノ日本ニ於テ有スル領事裁判權ハ益々擴張セラレタリ次ニ繙譯股引減稅
 ニ關スル約定アリ明治四年ニハ布哇トノ間及ヒ支那トノ間ニ新ニ條約ヲ締結
 ラ見タリ而シテ從來ノ條約ヲ改正セントスル計畫ノ端緒ハ此年ヨリ始マリタ
 リ

明治四年岩倉特命全權大使ハ條約改正ノ案ヲ具シテ歐米各國ヘ派遣セラレタ
 リ其案ノ大要ヲ舉クレハ左ノ如シ
 一 三府五港ニ限リ外國人ノ雜居ヲ許シ從來ノ居留地ヲ廢止スルコト
 二 三府五港以外ノ地ニモ外國人ノ旅行ヲ自由ニスルコト
 三 日本政府ノ爲メニ使用セララルル外國人ハ何レノ處ニモ居住スルヲ得ル
 コト
 四 外國人ハ日本ノ法律制度ニ服從スヘク從來ノ領事裁判權ヲ撤去スルコ
 ト但外國人ヲ裁判官トシテ任用スルコト
 五 日本從來ノ法律ヲ改メ民法刑法ヲ制定スルコト此制定ノ議ニ與ル者ハ
 內國人及ヒ外國人ヨリ選出スルコト
 此ノ如クニシテ稅權ノ回復ニハ指ヲ染メサリ岩倉大使ハ明治四年ヨリ明治
 六年ニ涉リ歐米各國ヲ巡廻シタレドモ條約改正ノ目的ヲ達スルコト能ハサリ
 キ明治六年ヨリ十年ニ至ルマテハ國內ニ種種ノ叛亂アリ又征韓論、臺灣ノ征討
 清國トノ交渉事件等ノ爲メニ條約改正ノ談判ヲスラ爲スコトナクシテ止マリ

明治十一年ニ至リ寺島外務卿ハ駐米特命全權公使吉田清成ヲシテ北米合衆國トノ間ニ通商條約ヲ締結セシメタリ此條約ハ翌明治十二年二月ニ批准セラレタリ其内容ヲ觀ルニ法權ニ關スル約定ハ之ナカリシト雖モ稅權ハ絕對ニ回復シタリ其條文ニ就キ最重要ナルモノハ左ノ第一條ノ規定ナリ

慶應二年五月十三日即チ西曆千八百六十六年六月二十五日一方ハ日本國委員他ノ一方ハ亞米利加合衆國大不列顛佛蘭西和蘭ノ委員江戶ニ於テ調印シタル改稅約書並ニ右約書中ニ載セタル輸出入品運上目録及ヒ借庫規則ハ日本ト合衆國トノ間ニ於テハ茲ニ之ヲ廢棄シ而シテ現ニ其旅行ヲ止ムルハ此約書ノ第十條ニ掲載スル約東實施ノ時ニ於テスヘシ又江戸ニ於テ取結ヒタル安政五年即チ西曆千八百五十八年ノ條約ノ中港海關稅及ヒ諸稅ノ諸規則ニ關スル條款並ニ右安政五年即チ西曆千八百五十八年ノ條約ニ添ヘタル貿易章程モ悉皆之ヲ廢棄スヘシ此約書實施ノ日ヨリ日本海關稅並ニ其他諸稅ヲ自由ニ賦課シ及ヒ日本開港場外國貿易ニ關スル諸規則制定ノ權利ハ獨リ日本政府ニ屬スルコトヲ合衆國ハ承認スヘシ

然ルニ此條約ハ諸外國カ從來ノ條約ヲ改正スルコトヲ肯セザリシヲ以テ第十條ノ規定ニ依リ實施セララルコトナクシテ止メリ

其後井上外務卿ノ時代ニ明治十三年ヨリ十九年ニ涉リ案ヲ更ヘテ條約改正ノ談判ニ著手シ或ハ法權ノミノ絕對回復ヲ爲サントシ或ハ稅權ノミノ絕對回復ヲ爲サントシ或ハ法權稅權各幾分ノ回復ヲ爲サントシタレトモ皆功ヲ奏セザリキ其中最後ノ案トシテ世ニ傳ハレルモノヲ舉クレハ大要左ノ如シ

一 關稅ハ平均約一割トスヘキコト

二 新條約實施ノ後三年間ハ開港場ニ在ル外國人ハ日本ノ法律ニ服從セザルコト尤モ三年間ニ於テモ内地ニ雜居シ土地ヲ所有スル外國人ハ日本ノ法律ニ服從セザルヘカラス但極刑ニ當ル罪ヲ犯ス者ハ日本ノ法律ニ依リテ處斷セララルコトヲ免ル

三 外國人ヲ任用シテ日本ノ裁判官ト爲スコト

四 此條約ノ有効期間ヲ十二箇年トスルコト隨テ條約實施後ニ於テハ日本國ハ絕對ニ裁判權ヲ回復スルコト

明治二十一年以後大隈外務大臣ハ先ツ墨西哥トノ間ニ對等ノ通商航海條約ヲ結ビタリ然レトモ爾餘ノ歐米諸國トハ對等ノ條約ヲ結フコト能ハスシテ大要左ノ如キ改正案ヲ作リタリ

一 領事裁判權ヲ撤去スルコト

二 領事裁判權撤去後五箇年間ハ外國人カ被告ト爲リタル訴訟事件ヲ審理センカ爲メニ大審院ニ外國人タル判事四名ヲ置クコト而シテ此ノ如ク外國人カ被告タル場合ニ於テハ外國判事ノ數ヲシテ日本判事ノ數ヨリ多クラシムルコト

三 内地雜居ヲ許可スルコト

四 領事裁判權撤去ニ先テ法典ヲ實施スルコト

五 外國人ニ土地所有權ヲ與フルコト

此案モ亦朝野ノ反對ニ遭ヒ成功ヲ見スシテ止ミタリ其後明治二十四年ノ青木案明治二十五年ノ榎本案等ニハ外國判事任用ノ事又ハ外國人ニ土地所有權ヲ許スカ如キ事ナカリシト雖モ政治上ノ變動ノ爲メキ

シ但便宜上俘虜ノ歸國ニ付テハ兩國ニ於テ其引渡ニ關スル協議ノ纏マルマヲ抑留國ニ於テ之ヲ保管シ置クハ一般ニ行ハルル所ニシテ妨ナシ又平和回復ト共ニ戰爭中中止セラレタル兩國人民間ノ私權ノ行使ハ悉ク回復シ戰爭前ニ於ケル契約ハ法廷ノ保護ニ依リ履行セラルヘシト雖モ戰爭ノ爲メニ事實上履行スヘカラサルニ至リタルモノハ其履行ヲ要求スルコト能ハスシテ戰爭ハ天災即チ不可抗力ト同一ニ看做サルヘク同一法理ニ基キ一定ノ時間ヲ契約履行ニ付キ約定シタルモノハ戰爭繼續間ノ日時ハ其期限ニ算入セサルモノトス茲ニ殊ニ注意ヲ要スルハ媾和ヲ爲ス場合ニ於テ交戰國カ媾和條約中ニ反對ノ規定ヲ設ケ置カサル以上ハ其當時交戰國雙方ノ管轄スル土地並ニ之ニ屬スル物件ハ五ニ自國ノ所有ト爲スノ法則ニシテ例ヘハ占領地ノ處分ヲ媾和條約中ニ特ニ規定セザル場合ニ於テハ悉ク占領國ノ領有ト爲リ動産ニシテ占領軍ニ沒收セラレタル物件ハ固ヨリ其所有ニ歸シ未タ沒收ノ完了セザル物件ハ原所有者ニ回復スルモノトス此法則ヲ名ケテ現有法ト曰フ此法則タル理論上ニ於テハ批難スヘキ點アルヘシト雖モ實際ノ便宜ハ最も多クシテ媾和條約ニ記載

セタルカ又ハ交戰國ニ於テ讓與ヲ明言スルコトヲ欲セタル物件ノ所有權ヲ定ムルニ最モ便宜ナル法則ナリ然レトモ交戰國雙方ノ意思ニ因リテハ必スシモ此法則ニ依ルコトヲ要セスシテ復原法ニ依リテ平和ノ回復ト共ニ戰爭前ノ狀態ニ其物件ヲ回復スルコトト爲スヲ得ヘシ各兩國ノ意思ニ基キ明文ヲ以テ復原法ヲ用ヒタル場合ニ於テハ條約中ニ明言セタル占領ノ土地並ニ其附屬ノ物件ヲ原所有國ニ返還スルノ意義ニシテ戰爭ノ法則ニ依リテ行ヒタル徵收又ハ損害ヲ本國ニ賠償スルノ意義ニ非ス換言セハ平和回復ノ當時占領地ニ於ケル狀況ニ變更ヲ加フルコトナクシテ舊國ニ返還スルニ止マルモノトス

第二節 媾和條約

第一款 媾和ノ開始

媾和條約ハ「グアタル」云ヘル如ク交戰國雙方ノ讓歩ニ因リテ戰爭ヲ終了スルモノニシテ若シ雙方ニ於テ嚴正ニ其權利ヲ主張スルニ於テハ決シテ戰爭ヲ終了スル能ハサルモノトス而シテ媾和條約ニ依リテ戰爭ヲ終ルトキハ戰爭ノ原因ト

爲リタル問題ヲ之ニ依リテ決定スルノミナラス戰爭中ニ於ケル雙方ノ行爲並ニ戰爭ノ費用及ヒ損害ニ付テモ悉ク條約規定ヲ以テ確定スルモノニテ條約ヲ締結スルハ交戰國雙方ニ於テ全權委員ヲ選定シ以テ其條約ヲ締結スルモノニテ他ノ條約ト均シク兩國主權者ノ批准ヲ要シ批准ニ依リテ始メテ有效ト爲ルモノトス然レトモ條約中ニ戰爭行爲ノ終了ノ時日ヲ特ニ記載セザルトキハ條約調印ト共ニ其行爲ヲ廢棄スヘキ效力ヲ有シ日清戰爭ニ於ケルカ如ク豫メ休戰ノ約定アリタルトキハ論ナシト雖モ特ニ休戰ノ約定ナキ時ニ於テモ其條約調印ト共ニ當然休戰ト爲ルヘキモノタリ何トナレハ若シ條約ノ批准アルトキハ其效力ハ調印ノ當時ニ遡ルニ由リ調印後戰爭ヲ繼續セハ當ニ戰鬪地方ニ不必要ナル損害ヲ與ヘ兵士ヲ無益ニ傷フノミナラス之カ爲メニ條約締結當時ノ事情ヲ變更シ其條約ノ實行ヲ困難ナラシムヘキニ至ルヲ以テナリ又戰爭ノ行ハル場所ノ廣クシテ軍隊屯在ノ場所ニ由リテハ交通不便ノ爲メ迅速ニ媾和ヲ通知スルコト能ハサルコトアリ斯ル場合ニハ豫メ其場所ニ由リ戰爭行爲ヲ廢止スル時期ヲ異ニシ置クコトナキニ非ス斯ル場合ニ於テハ其約定ノ日時ヲ

ヲハ平和ノ事實ヲ知ラスシテ戰爭ヲ繼續スルハ妨ナシト雖モ若シ其期日前ニ於テ公ナル平和回復ノ通知ヲ得タルトキハ其約定ノ期日ヲ待タス同通知ヲ受領シタルト同時ニ戰爭ヲ廢止スヘキモノトス茲ニ公ナル通知ト云フハ本國政府ヨリ公然ニ軍隊又ハ艦隊司令官等ニ與フル公ノ通告ニテ軍隊ハ自國政府以外ノ關係ヨリシテ平和回復ノ通知アルモ之ニ依リ行動スルノ義務ヲ有セス又濫ニ斯ル通知ニ信賴シテ行動スルハ危險ナルモノトス此適例トシテ千八百一年英佛戰爭ハ「アミアン」條約ニ依リ終了シ印度洋ニ於テハ五箇月間ニ戰爭行爲ヲ終ルヘキコトト爲シタルニ其期限滿了前英艦スワイン「ハード」號ハ印度洋ニ於テ佛國ノ爲メ拿捕セラレタリ此場合ニ於テ其拿捕者ハ英國及ヒ葡萄牙國ヨリシテ戰爭ノ既ニ終了シタル通知ヲ得タルニ拘ハラヌ拿捕ヲ行ヒタルモノナリシカ佛國捕獲審檢所ハ其捕獲ヲ正當トセリ是レ全ク佛國政府ノ公報ナキニ因リタルニ外ナラス

第二款 媾和條約ノ效果

媾和條約ニ於テハ之ニ依リテ交戰國間ニ於テ戰爭發生ノ原因ト爲リタル係争ノ問題ヲ悉ク決定スルヲ普通トスト雖モ時トシテハ其問題ノ多岐ニ亘リテ一時ニ之ヲ處理スルコトノ困難ナル所ヨリシテ其詳細ノ決定ヲ後日ニ譲リナカラ漫然交戰國間ニ平和ノ回復ニ付テノミ先ツ條約ヲ締結スルコトナキニ非ス千八百十四年英米兩國間ノ「グント」媾和條約ニ於テ戰爭ノ原因ト爲リタル問題ヲ解決スルコトナクシテ單ニ其戰爭ヲ終了スヘキコトヲ規定シタルハ其一例ナリ然レトモ此ノ如キ實例ハ最モ稀ニシテ普通係争問題ヲ一定シ之ト同時ニ戰爭ノ結果ニ伴フ新狀態ニ附隨スル必要ナル種種ノ約定ヲ爲シ其人民ノ私權ヲ保證シ通商其他國際上ノ關係ヲモ規定スルモノニシテ例ヘハ馬關條約ニ於テ戰爭ノ原因タリシ朝鮮ノ獨立ヲ確定シ臺灣ノ割讓及ヒ償金等ヲ定メ加フルニ兩國間ニ於テ新ニ通商條約ヲ締結スルニ關シテ其基礎ト爲ルヘキ標準ヲ規定セルカ如シ今簡短ニ媾和條約ノ效果ヲ列舉セハ左ノ如シ

(甲) 戰爭前ノ事項ニ關シテハ

第一 交戰國間ニ於テ戰爭ヲ惹起スルニ至リタル問題ヲ絕對的ニ終了シ同

一問題ニ付キ兩國ノ爭議ヲ全ク消滅スルモノニシテ普通媾和條約ニ於テハ其條文中ニ締盟國ハ永久ノ平和アルヘキコトヲ明言スルモノトス此永久ノ平和トハ將來如何ナル原因ニ付テモ決シテ戰爭ヲ爲サスト約定シタルニ非スシテ戰爭ヲ開始シタル問題ニ付キ兩國ハ再ヒ戰爭ヲ爲ス能ハスト云フニ過キス就中媾和條約ノ效果ハ其戰爭ヲ惹起スルニ至リタル特定ノ問題ニ限ルヲ以テ締盟國ハ同一種類ノ事件ニ付キ權利ノ侵害又ハ損害ヲ重クテ受クルトキハ其事件タル縱令前戰爭ト爲リタル問題ト其性質ヲ同シクスルコトアルモ是レ固ヨリ別箇ノ問題ナルヲ以テ更ニ開戦ノ理由ト爲シ得ヘキモノトス又戰爭前ノ損害其他國家間ノ問題ニシテ戰爭ノ理由ト爲ラザリシモノハ媾和條約ニ關係ナキヲ以テ戰爭終了ニ依リ之ヲ消滅セザルヤ明カナリ

第二 兩國間ニ存在セシ條約其他ノ約定ニシテ其實行カ交戰國ノ一方又ハ雙方ノ戰爭ニ干與シタル爲メ中止ト爲リタルモノハ悉ク回復ス

第三 兩國人民間ノ私權ヲ回復シ戰爭ニ因リテ物質的ニ其實行ヲ爲ス能ハサルニ至ラサルカ又ハ無效ト爲ラサル契約其他權利義務一切ノ關係ハ兩國

ノ法廷ニ於テ各之ヲ保護スルモノトス

(乙) 戰爭中ノ行爲ニ關シテハ

媾和條約ハ戰爭ニ關スル事項ニ最終ノ決定ト看做スカ故ニ交戰國一方ノ命令ノ下ニ於テ或ハ戰爭ノ權利ヲ超過シ又ハ其權利ニ關係ナクシテ爲シタル行爲ニ付キ媾和條約調印後ニ於テ對手國ハ其政府又ハ人民ノ爲メ斯ル行爲ヲ批難シ若クハ之ニ關スル要求ヲ提出スルコト能ハス又時トシテハ戰爭中交戰國政府ノ命令ニ出テスシテ人民ノ濫ニ戰爭行爲ヲ爲シタル者又ハ其他ノ不正ノ行爲アリタル者ナキニ非サレトモ斯ル場合ニ於テモ媾和條約ハ總テ兩國間ニ戰爭ノアリタル感情ヲ塗抹シ其惡感情ヲ一掃スルト同時ニ戰爭ノ熱情ニ伴ヒタル不正ノ行爲ヲハ罰セサルモノニシテ媾和條約調印ト共ニ此等戰爭中ノ行爲ハ其不正ナルモノト雖モ之ヲ免除スルモノトス之ヲ名ケテ赦免ト稱シ媾和條約締結ニ當然伴フヘキ結果ナレトモ其條約中ニ之ヲ明定スルヲ普通トス馬關條約第九條第二項ニ於テ日本臣民ニシテ軍事上ノ罪課又ハ犯罪ト認メラレタル者ハ清國ニ於テ直チニ解放スヘキコトヲ約シ清

國ハ又交戰中日本軍隊ト種種ノ關係ヲ有シタル清國臣民ニ對シ如何ナル處刑ヲモ爲サヌ又之ヲ爲サシメタルコトヲ約スト規定セルハ其一例ナリ

(丙) 條約締結後ノ行爲ニ關シテハ

締盟國ハ條約締結ト共ニ其平和ヲ回復シ批准ノ效力ハ條約ノ調印當時ニ遡ルモノトス而シテ兩國人民ノ條約締結後ニ於テ平和ノ事實ヲ知ラスシテ戰爭行爲ヲ爲シタルトキハ固ヨリ犯意ナキカ爲メ處刑セラルルコトナシト雖モ國家ハ之ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ免ルル能ハス換言セハ加害國ハ其被害國ニ對シ可成的之ヲ原狀ニ回復スヘク損害アルトキハ悉ク賠償セザルヘカラス

第三節 戰爭行爲ノ廢止及ヒ征服

交戰國ニ於テ戰爭行爲ヲ單純ニ廢止シテ戰爭ノ終了スルコトハ古來其例甚タ少ク千七百十六年瑞典國及ヒ波蘭國間ノ戰爭及ヒ今世紀ニ於テ中央亞米利加並ニ南亞米利加ニ於ケル西班牙國殖民地ノ獨立シタル場合ニ於ケル事實ハ其

實例タリ即チ亞米利加洲ニ於テ西班牙國ニ叛亂シ獨立ヲ企テタル殖民地ニ對シ同國ハ千八百二十五年以來戰爭行爲ヲ廢止シ中立國及ヒ其人民ニ對シテモ中立ノ義務ヲ強制シタルコトナシ然レトモ西班牙國ハ千八百四十年ニ至ルマテハ墨國ヲ除クノ外中央及ヒ南亞米利加諸國ト平和ノ交通ヲ爲シタルコトナク同年ニ於テ勅令ヲ以テ「エタワドル」共和國ノ船舶ニシテ西國版圖ニ入ルコトヲ許可シ又千八百四十四年智利國ノ獨立ヲ承認セリ尤モ智利國ノ船舶ニ對シテハ其三年前ヨリシテ交通ヲ許シシ「エチヂエラ」國ノ如キハ千八百五十四年ニ於テ其獨立ヲ承認セリ「エチヂエラ」國ノ如キハ千八百五十四年ニ於テ其獨立ヲ廢止ニ因リ戰爭ノ終了スルトキハ其終了ノ時期ヲ確知スルコト能ハスシテ永ク交戰國並ニ其人民ハ互ニ對手國ニ於テ戰爭ノ關係ヲ繼續スルヤ否ヤノ疑ヲ有シ中立國及ヒ其人民モ局外中立ノ法則ニ準據シテ交戰國タリシ國家ニ對シ交通關係ヲ爲スヘキヤ否ヤノ疑ヲ免レスシテ其不便少カラナリハ明カナリ然レトモ時日經過ノ後ニ於テハ交戰國カ早晚事實上平和ノ狀態ヲ回復スルニ至リ其結果タル媾和條約ニ依リテ戰爭ヲ終了シタルト其效果ヲ

一ニスルモノヲス但戰爭行為ノ廢止ニ因リ戰爭ヲ終了スル場合ニ於テハ確ニ
 平和關係ノ成立スルニ至ルマテハ兩國間ニ戰爭ト爲リタル問題ノ終了シタル
 モノト爲スヘカラサルニ由リ同一ノ問題ニ付キ何時ニテモ戰爭ヲ新ニシ得ヘ
 キモノナルカ如シ。中立國ニ對シテ其人民及領土ニ對シテ戰時ノ狀態ニモ交戰國
 征服トハ交戰國一方ノ亡滅シテ其領土ハ戰勝國ノ爲メニ奪ハレ其人民モ戰勝
 國主權ノ下ニ立テテ其國ノ一部ト爲ルモノトス斯ル場合ニ於テ戰勝國ハ其土
 地ニ對シテ之ヲ自國ノ版圖ト爲スノ意思ト實力トヲ以テ事實上ノ領有ヲ繼續
 スル狀態ノ存スルヲ必要トス而シテ版圖ト爲スノ意思ハ之ヲ合併スルノ宣言
 等ニ依リテ發表セラレ事實上ノ領有ハ其地方ニ對シテ警備ノ行為ニ依リテ明
 白ト爲ルモノニシテ千八百六十年伊國ノ「シシリア」ヲ始メ同半島ノ諸
 國ヲ征服シ千八百三十年佛國カ「アルゼリヤ」ヲ征服シタルハ其實例ナリ征服ニ
 付キ有名ナル問題ハ千八百六年「ナポレオン」ハ「ハッスカッセル」國ヲ征服シテ其土
 地ヲ「ウエニストフアリヤ」王國ニ屬セシメタルニ「ナポレオン」敗北後ニ於テ「ハッス
 カッセル」王ハ再ヒ其領土ヲ回復シタリシカ新政府ハ舊國ヲ繼續シタルモノナ

リヤ否ヤニ付キ問題ヲ生シ遂ニ「ブレスコ」大學ニ其審判ヲ求メタルニ同大學
 ハ判決シテ曰ク「ナポレオン」ノ征服ニ因リ舊國ハ亡滅シテ千八百六年乃至十三
 年ノ間其土地ハ「ウエニストフアリヤ」王國ト爲リ其間ニ於テ廢王ハ佛國ニ對シ戰
 争ヲ繼續シタルモノニ非サルニ因リ新政府ハ舊國ノ相續者ト看做スヘカラス
 トシ此點ニ付テハ學者ノ異論ナキ所ナリ

第三編 局外中立ノ法則

第一章 中立ノ意義

局外中立トハ國家カ交戰國間ノ戰爭ニ付キ孰レノ一方ニモ加擔スルコトナク
 戰爭中雙方ニ對シテ平和ノ國交ヲ繼續スル狀態ヲ謂フ局外中立ノ法則ニ
 付テハ交戰者ノ一方ニ對シ積極的又ハ消極的ニ他ノ一方ニ交戰上ノ利益ト爲
 ルヘキ行為ヲ爲スコトナク雙方ニ對シ戰爭前ヨリ保持シ來リタル國交ヲ爲ス
 ヲ原則トス然レトモ局外中立ノ地位ハ戰時ニ於テノミ存在スルモノナルヲ以
 テ自ラ平時國際法ノ法則ヲ全然之ニ適用シ得ヘキモノニ非ス換言セバ交戰國

ト中立國トノ權利義務ニ付キテハ交戰者カ戰爭ヲ遂行スルニ必要缺クヘカサル權利ト中立國カ其中立ヲ維持スルニ必要ナル諸種ノ法則アルノミナラス平時關係ニ於テハ國家ハ獨立權ノ作用ニ依リ特定ノ國ニ對シ他國ヨリ一層親密ノ交際ヲ爲シ之ニ特別ノ待遇ヲ與ヘ得ヘキモノナレトモ戰時ニ於テハ交戰國雙方ニ對シ嚴格ニ偏重ナキ態度ヲ取リテ其國交ヲ爲スヘキモノトス凡テ獨立國ハ戰爭前ヨリシテ他國トノ條約ニ因リ其行爲ヲ制限セラレ居ラサルニ於テハ他國間ニ於ケル戰爭中ハ局外中立タルヘキ權利ヲ有シ又其義務アルモノニ屬シ反對ノ宣言ヲ爲スニ非サレハ第三國ハ自ラ局外中立タルコトヲ推測スヘキモノトス故ニ日清戰爭ニ際シテモ英、米、伊、丁、葡及ヒ瑞典ノ諸國ハ中立ノ宣言ヲ爲シタレトモ佛、獨露等ハ別ニ其宣言ヲ爲サス此同ニ於テ獨逸國ハ初メテ中立ノ宣言ヲ爲シタレトモ斯ル宣言ハ之ヲ爲スト否トニ拘ハラズ同國ハ日清戰爭ノ當時ト同シク當然局外中立ナルモノトス又局外中立ト永久的中立トハ之ヲ區別セサルヘカラスシテ局外中立ニテハ國家カ他國間ニ戰爭アルニ際シ自國ノ獨立權ニ由リ其戰爭ニ干與スルノ自由ヲ有スルニ拘ハラズ自ラ

第三者ノ地位ニ立ツコトヲ意味スルモノナレトモ永久的中立トハ國家又ハ一國ノ領土若クハ特定ノ物件又ハ人員ニ付キ列國條約ニ依リテ交戰者カ之ヲ侵スヘカラスト定メタルコトヲ意味スルモノニシテ歐洲中瑞西、白耳義、ルクセンブルヒ、三國及ヒ亞弗利加、コンゴ、國ノ如キハ列國條約ニ依リ永世中立國トシテ他國ノ其領土ヲ侵ササルト同時ニ此等諸國ハ戰時平時ヲ問ハズ自國ノ安全ヲ防禦スル場合ヲ除キ他國ト戰爭ノ行爲又ハ戰爭ト爲ルヘキ行爲ニ干與スヘカラサルコトト爲リ居ルモノナリ要スルニ永世中立國ハ列國條約ニ依リ獨立權ノ行使ヲ制限シタルモノニ屬シ國際法上主權國ノ特例ト見ルヘキモノトス又戰爭中獨立國ノ局外中立ニ付キ昔時ノ學者ハ完全中立ノ外ニ不完全若クハ制限的中立ナルモノヲ認メ戰爭前ヨリシテ國家カ一定ノ兵士又ハ作戰ノ資料ヲ交戰國一方ニ貸與若クハ給與シ又ハ交戰上特種ノ利益ヲ其一方ニ限リテ與フルコトヲ條約ヲ以テ約定シタルトキハ開戰後ニ於テ其規定ニ基キ交戰者一方ヲ補助シ得ヘキニ拘ハラズ其他ノ關係ニ於テハ全ク局外中立ノ地位ニ在リ得ヘキモノト爲シタルモノトス然レトモ今日ニ於テハ斯ル不完全又ハ制限的

中立ナル國家ノ地位ヲ認メスシテ縱令條約ニ依ルモ戰爭中交戰國一方ノ戰爭行為ヲ助勢スルハ中立ノ違反ニシテ其責任ヲ負ハサルヘカラス
 一定ノ場所又ハ物件又ハ人員ニ對シテ戰爭行為ヲ及ホササルコトヲ列國條約ニ依リ規定シタルモノニ付テモ時トシテ中立ナル文字ハ之ニ費用セラレ斯ル場合モ亦均シク永久の中立ニ屬スルモノトス即チ條約ニ基ケル中立ノ場所トハ佛領「サヴォイ州」希臘領「アイオニヤン」島中「コルフ」及「パキソ」兩島ノ如キモノニシテ「サヴォイ州」ハ千八百十五年「ビヤナ」及「ヒバリ」條約ニ於テ瑞西國中立ノ一部ト定メラレ「サルジニヤ」國ノ領土ナリシカ戰爭アルトキハ同國兵士ハ其境ニ退キ瑞西國ノ兵士ヲ以テ之ヲ護衛スルコトト爲シタリシニ千八百六十年同州ハ伊國ヨリ佛國ニ割讓セラレタリ而シテ千八百八十三年佛國政府ハ「サヴォイ州」ジュネヅ「府」ヨリ近距離ニ於テ砲臺ヲ築カントシタルニ中立地タルノ故ヲ以テ瑞西國ヨリ抗議シ佛國モ其建築ヲ廢止セリ又「コルフ」及「パキソ」兩島ハ千八百六十四年歐洲大國ノ之ヲ希臘國ニ與ヘタルニ際シ中立地地方ト爲シ希臘國モ之ヲ承認セルニ由ルモノタリ

然レトモ此等中立地方ト稱スルモノニ付キ其中立ノ範圍ハ今日甚タ明確ナラスシテ政府ハ其地ニ於テ兵士ヲ募集シ軍用品ヲ徵發シ得ヘキニ由リ敵國ハ戰爭ノ必要上敵意ノ行為ヲ之ニ及ホシ能ハサルノ理ナキカ如シ之ニ反シテ例ヘハ「巴里條約」ニテ「ダニユーブ」河ヲ中立トシ千八百八十八年「蘇士運河」ヲ中立トシタルカ如キハ其性質全ク前述セル中立地ト性質ヲ異ニシ其水上ニ於テ戰爭ノ資料ヲ得又ハ之ヲ自國作戰ノ用ニ供スル能ハサルヲ以テ斯ル列國條約ノ規定ハ犯スヘカラサル義務アルコト明カナリ更ニ又列國條約ニ基カスシテ戰爭中交戰國一方ヨリ諸國ニ對シ敵國領土中一定ノ場所ヲ中立トシ之ニ戰爭行為ヲ及ホササルコトアリ日清戰爭中我國ハ上海ヲ以テ中立地トシ清國ニ於テ之ニ戰爭準備ヲ爲ササルコトヲ條件トシテ其中立ヲ認メタルハ其一例ナリ然レトモ斯ク列國條約ニ基カス又之ヲ永久の中立ト爲ササルモノハ國際公法ノ法則上之ヲ中立ト認ムル能ハスシテ單ニ交戰國ノ他國ニ對スル保證ニ過キス一定ノ物件又ハ人員ニ付キ中立ノ文字ヲ用フルハ列國條約ニ依リ戰地假病院及ヒ陸軍病院並ニ其附屬員等ヲ意味スルモノニシテ其詳細ハ既ニ述ヘタル所

ナリ要スルニ中立ノ文字ノ使用ハ諸種ノ場合ニ使用セララルコトアレトモ本編ニ所謂局外中立ナルモノハ永久ノ中立其他ノ中立ヲ意味スルニ非スシテ獨立國カ戰爭中交戰國ヲ助勢スルノ能力アルニ拘ハラシ其戰爭ニ干與スルコトナク雙方ニ對シ平和ノ國交ヲ爲スノ地位ニ在ルモノナルコトヲ明カニ區別スルコトヲ要ス

交戰國間ニ於テ戰時ノ權利義務關係ノ開始スルハ既ニ論ジタル如ク兩國間ニ開戦ノ意思ヲ以テ實際敵意ノ行爲アルニ於テスルコトナレトモ中立國カ交戰國ニ對スル中立關係ノ義務開始ニ付テハ然ラスシテ交戰國ハ友誼國ニ對スル義務トシテ開戦アルヤ否ヤ第三國ニ其開戦ノ事實ヲ通告スヘキモノナルト同時ニ第三國ハ戰爭ノ成立ヲ知ルニ非サレハ局外中立ノ義務ヲ負フモノニ非ス隨テ交戰國ハ開戦ヲ宣言其他ノ方法ヲ以テ諸國ニ之ヲ知ラシムヘキモノニテ開戦ノ事實ヲ不明瞭ニ爲シ置タハ中立國ニ取リ不便ト損失ヲ生スルコト尠カラサルニ由リ宣言其他ノ通告ヲ爲スハ管ニ德義上ノ義務ナルノミナラス國際公法上ノ義務ト看做サルルニ至レリ然レトモ若シ中立國政府又ハ人民ニシテ

隨ヒ一物ノ微ト雖モ其原料ノ獲得ヨリシテ全ク生産ノ結了ヲ告グルニ至ル間數多ノ人之ニ關係シ或ハ土地ヲ以テ或ハ資本ヲ以テ或ハ勞動ヲ以テ生産ノ進行ヲ助クルナリ故ニ此等ノ土地資本又ハ勞動ニ對スル報酬ハ結局生産ノ結果ヨリ之ヲ得サルヘカラス是レ即チ財貨ノ分配ノ起ル所以ナリ然レトモ多クノ場合ニ於テ其生産物ヲ直接ニ分配スルニ非ス例ヘハ企業者カ勞動者ニ與フル貨銀ハ生産ノ半途ニ於テシテ而モ多クハ貨幣ヲ以テ支拂フモノナレトモ是レ企業者カ一時立替ヲ爲スニ外ナラス企業者ハ生産ノ結了ヲ待チテ其立替ノ返價ヲ受クルモノトス

財貨ノ分配ハ社會上極メテ重要ナル事項ニシテ財貨ノ分配宜キヲ得サルニ於テハ種種ナル弊害ノ起ルヲ免レサルナリ然ラハ財貨ハ如何ニ分配セララルヲ以テ最モ一國ノ進歩ニ適スルモノト爲スカ即チ財貨分配ノ結果トシテ人人ノ間ニ生スル貧富ノ差ハ如何ナル程度ヲ以テ最モ可ナリト爲スカヲ觀ルニ各人ノ所得及ヒ財產ノ全ク相平均スルト其懸隔ノ甚タ大ナルトハ其ニ有害ニシテ中産者ノ數多キヲ以テ最モ宜シトス中産者トハ多少ノ資産ヲ有スレトモ勞動

第二章 地代

第一節 地代ノ意義及ヒ其原理

地代トハ土地天賦ノ性質ヲ使用スルヨリ生ズル所得ナリ天賦ノ性質トハ毫モ人力ヲ籍ラスシテ全ク原始的ニ存在スル性質ノ謂ニシテ要スルニ地味位置及ヒ合著物ニ外ナラサルナリ而シテ地代ノ成立スル原因ハ土地力此等ノ性質ヲ具備スルコト不同ニシテ其優等ナルモノニ限アルコト及ヒ報酬漸減ノ法則ノ行ハルルコト是ナリ

先ツ農業ニ使用スル土地ノ地代ニ付テ之ヲ述ヘンニ例ヘハ一隊ノ人民未開ノ地ニ移住シタル場合ニ於テハ地味及ヒ位置ノ比較上最モ優等ナル土地ヲ擇ヒテ之ヲ耕作スヘシ而シテ此ノ如キ第一等ノ土地カ必要以上ニ存在スルトキハ人口ノ使用スル土地ニ優劣ノ差異ナキヲ以テ地代ハ未タ成立セザルナリ然レトモ人口繁殖シ第一等ノ土地ノ收穫ノミヲ以テ其欲望ヲ満足スルコト能ハス隨テ穀物ノ價格騰貴スルニ於テハ第二等ノ土地モ亦用ヒラルルニ至ラン何ト

ナレハ第二等地ハ第一等地ニ比シテ收穫少キモ穀物ノ價格ノ騰貴ニ因リ其收穫ハ以テ其生産費ヲ償フニ至リ且報酬漸減ノ法則ニ由リ第一等地ニ對シテ資本勞働ヲ増加スルヨリモ之ヲ第二等地ニ投下スルトキハ收穫却テ大ナレハナリ而シテ第一等地ハ一反歩ヨリ米二石ヲ産シ第二等地ハ一石五斗ヲ産スルモノト假定セハ其差五斗ハ即チ第一等地ノ地代ニシテ第一等地ノ所有者カ第二等地ノ所有者ニ對シテ有スル利益ナリ此時ニ當リ新ニ移住シ來レル者アリトセンニ此等ノ移住民ハ第二等地ヲ使用シテ收穫ノ全部ヲ得ルモ第一等地ヲ借受ケテ五斗ノ地代ヲ拂フモ其得ル所ハ同一即チ一石五斗ナリトス人口尙ホ増加シテ米ノ供給不足ヲ告ケレハ米ノ價格ハ益々騰貴シ一反歩ヨリ一石ヲ産出スル第三等地ヲ耕スモ亦其生産費ヲ償フニ至レハ第一等地ノ地代ハ一石ト爲リ第二等地モ亦五斗ノ地代ヲ生ズルニ至ルナリ

地代ノ成立スルハ右ニ述ヘタルカ如シ而シテ此成立セル地代ハ何人ノ所得ニ歸スヘキヤ所有者自ラ其土地ヲ使用スルニ於テハ地代ハ他ノ所得ト共ニ當然所有者ニ歸シ之ヲ他人ニ貸與シタル場合ニハ需要供給ノ關係ニ依リテ定マリ

土地ニ對スル需要大ナルトキハ地代ノ全部ヲ擧ケテ土地ノ所有者之ヲ收受スヘキナリ何トナレハ借受人ハ己カ下シタル勞働資本ニ對シテ相當ノ報酬ヲ得レハ損失ヲ被ラサルカ故ニ地代ノ全部ヲ拂フニ至ルヘケレハナリ

地代ナルモノハ人口ノ繁殖ト共ニ次第ニ増加スルノ傾向アルモノトス即チ農産物ヲ要スルコト益多キニ及ヒテハ遠隔ノ土地又ハ劣等ノ土地ヲ用フルノ必要ヲ生シ隨テ近傍ノ土地又ハ豊饒ナル土地ノ地代ハ益騰貴スヘキモノトス地代騰貴スルトキハ農産物ノ價格モ隨テ騰貴スヘキカ如シト雖モ是レ原因ト結果トヲ顛倒スルモノニシテ地代ハ農産物ノ價格ノ一部ヲ成ササルモノトス何トナレハ曩ニ論シタルカ如ク農産物ノ價格ハ最モ不利益ナル條件ノ下ニ生産セラレタル部分ノ生産費ニ依ルモノナレハナリ即チ地代ハ農産物ノ價格ノ騰貴ニ依リテ始メテ成立シ又ハ増加スルモノニシテ地代成立シ若クハ増加シタル故ニ農産物ノ價格騰貴スルモノニ非サルナリ故ニ土地ノ所有者カ借地人ヲシテ地代ヲ支拂ハシメサルモ農産物ノ價格ハ低落スルコトナク唯借地人ヲシテ利益ヲ得セシムルニ過キサルナリ即チ地代ナルモノハ土地ノ所有者カ實際

之ヲ獲得スルト否トニ拘ハラズ社會ノ需要ニ應シテ使用セル土地ニ肥瘠近遠ノ差異アルニ於テハ決シテ消滅セサルモノトス

鑛山ノ地代モ其原理ニ於テハ農業地ノ地代ニ同シク各鑛山カ其生産費ヲ異ニスルニ基クモノトス即チ其含蓄スル鑛物ノ多少其品質ノ善惡之ヲ採掘スルノ難易市場ヨリノ距離等ニ依リテ地代ノ有無高低ヲ生スルナリ又家屋ノ敷地等ニ供スル土地ノ地代ハ主トシテ其位置ニ依リテ定マリ此種ノ地代ハ特ニ都會ニ於テ著シトス

第二節 地代ノ原理ニ關スル反對ノ學說及ヒ事實

前節ニ述ヘタルカ如ク地代ノ成立シ地代カ土地ノ所有者ニ歸シ地代カ次第ニ昇騰シ而シテ地代カ生産物ノ價格ノ一部ヲ構成セサル所以ノ原理ヲ一括シテ「リカルド」ノ地代説ト名ク蓋シ「リカルド」ニ先チ既ニ地代ヲ論シタル者アリタルトモ最モ明白ニ之ヲ説明シタルハ「リカルド」ナリトス此「リカルド」ノ學說ニ關シテハ反對論ナキニ非ス又實際上其原理十分ニ行ハレサル場合アルヲ

以テ少シク之ヲ述ヘン

米國ノ經濟學者「ケレー」ノ如キハ地代ヲ以テ土地天賦ノ性質ニ歸セス土地使用ノ準備ノ爲メニ投下セル資本及ヒ勞働ニ對スル報償ニ過キストセリ實際土地ヲ使用スルニハ多少ノ資本勞働ヲ要スルモノニシテ土地ノ賣買賃借セラルルヤ其價格又ハ借地料ハ人力ヲ以テ土地ニ施シタル改良ノ報償ヲ含蓄スルモノトス然レトモ土地天賦ノ性質ニ差異アリテ地代カ此原因ニ基ク所以ハ前節ニ述ヘタルカ如シ地主カ毫モ資本勞働ヲ加ヘサルニモ拘ハラス都會ニ於ケル地代ノ急激ニ上騰スルカ如キ事實ハ明カニ「ケレー」ノ說ノ誤レルヲ證スルモノナリ「ケレー」ハ又米國ノ如キ新開國ノ實際ニ徴シテ曰ク人ノ始メテ耕作ヲ爲スヤ「リカルド」言ヘルカ如ク最モ豊饒ノ土地ヲ選フモノニ非スト夫レ或ハ然ラシテ然レトモ資本未タ豊富ナラス人力尙ホ缺乏セル當時ニ於テ生産費ヲ要スルコト比較的少クシテ收益比較的多キ土地ヲ耕作スルハ明白ニシテ「リカルド」ノ最モ豊饒ナル土地ト云フハ此意ニ外ナラスト解釋セハ地代成立ノ原理ハ毫モ變更スル所ナキナリ

社會主義ノ論者ハ曰ク地代ノ成立シ且其上騰スルハ土地所有者ノ功ニ非ス多ク外國ノ狀況ノ變移ニ依ルモノナレハ土地所有者カ唯リ之ヲ取得スルハ不當ナリ故ニ土地ハ之ヲ社會ノ共有ト爲ササルヘカラスト此說タルヤ多少ノ真理ヲ含蓄スルモノナレトモ土地共有ノ制度ハ今日之ヲ行フヲ得ス課稅等ノ方法ニ依リ此所謂不當所得ヲ國家ニ納メシメントスルモ之カ見積極メテ困難ナリトス且土地ノ所有者ハ屢變更スルモノナルカ故ニ其利益ハ必スシモ一人ニ歸スルモノニ非ス又或場合ニハ地代減少ノ爲メニ地主ハ損失ヲ被ルコトアリトス

前節ニ述ヘタルカ如ク地代ハ漸次ニ上騰スル傾向ヲ有スルモノナレトモ地代ノ騰貴ヲ制限スル原因モ亦存在スルナリ例ヘハ農業ノ進歩ニ因リ收穫増加スルトキハ劣等又ハ遠方ノ土地ヲ用アルノ必要減スルナリ又運輸機關發達シテ運搬費減少スルトキハ遠方ノ土地ヲシテ近傍ノ土地ト競争スルコトヲ得セシメ隨テ近傍ノ土地ノ有スル便宜ヲ減少スルカ故ニ其地代ハ下落スヘキナリ近年歐洲ニ於テ耕作地ノ地代下落ノ傾向アルハ米國等ヨリ廉價ノ穀物輸入セテ

等ニ依リテ定ムル場合多キカ故ニ理論上地主ニ歸スヘキ利益モ借地人ニ所得ト爲ルコト少カラズ其實例ハ英國又ハ歐洲大陸ニ於テ之ヲ見ルナリ之ニ反シテ愛蘭ニ於テハ地主ノ收歛甚シク借地人間ノ競争激烈ナルカ故ニ借地人ノ支拂フヘキ地代ハ往往一年ノ全收穫ヲ超ユルコトアリト云フ

第三章 賃銀

第一節 賃銀ノ意義

人ハ其有スル勞働力ヲ發揮スルニ當リ或ハ企業者トシテ自ラ之ヲ用ヒ或ハ之ヲ他人ノ使用ニ供スルコトアリ第一ノ場合ニ於テハ勞働ニ對スル報償ハ他ノ所得ト混同スト雖モ第二ノ場合ニ於テハ其勞働ニ對シテ特ニ定メタル報酬ヲ得ルモノトス是レ即チ賃銀ナリ

今日ノ社會ニ於テハ他人ノ爲メニ勞働スル者少カラズ官吏ノ如キモ其一タリ然レトモ官吏ノ俸給ハ自由競争ノ爲メニ絶エズ變動スルモノニ非ス又醫師辯

護士等モ亦他人ノ依頼ニ應ジテ勤勞ヲ供シ其收受スル報酬ハ一種ノ賃銀ニ外ナラスト雖モ此等ノ職業ハ多少獨占的ノ性質ヲ有シ且風習慣行ニ制セラレ經濟上ノ原則ノミニ依リテ定マルモノニ非ス之ニ反シテ狹義ノ賃銀即チ所謂勞働者ノ收得スル賃銀ハ其高低スル所以主トシテ經濟上ノ原則ニ基キ而シテ一國ノ經濟上ヨリ之ヲ觀ルニ殊ニ重要ナルモノトス何トナレハ此賃銀ナルモノハ多數人民ノ唯一ノ所得ナレハナリ之ヲ換言スレハ社會ニ於ケル多數ノ人民ハ此賃銀ニ依リテ衣食スルモノナレハナリ

現今ノ經濟社會殊ニ歐米諸國ニ於テ製造其他ノ産業ニ從事スル勞働者ハ其生産ニ使用スル原料器具機械等ヲ自ラ所有スルモノニ非ス此等ハ皆雇主ニ屬スルモノトス故ニ勞働者ハ單ニ勞働ヲ供スルニ止マリ勞働ノ結果タル生産物ヲ對シテハ直接ノ利害關係ヲ有セサルナリ然レトモ今日ノ勞働者ハ往時ノ奴隸ノ如ク外部ノ強制ニ因リテ勞働スルニ非ス全ク自己ノ自由意思ニ依リテ勞働スルモノトス故ニ之ヲ營フレハ勞働者ノ勞働ハ一種ノ商品ニシテ賃銀ハ其價格ニ外ナラサルナリ然レトモ勞働ハ勞働者ノ身體ト分離スハカラサルカ故ニ

此労働ノ賣買ハ普通ノ商品ノ如ク至ク雙方ノ利己心ニノミ放任スルコトヲ得
サルナリ

第二節 賃銀ノ分類

第一 賃銀ニ實物ヲ以テ支拂フモノト貨幣ヲ以テ支拂フモノトアリ前者ハ飲食住居、衣服等ヲ以テ労働ノ報酬ニ充ツルモノニシテ經濟事情ノ幼稚ナル時代ニ於テハ此種ノ賃銀支拂法大ニ行ハレ而シテ授受者雙方ニ便利ナリシナリ然レトモ貨幣ノ使用行ハレ交通ノ便開ケ而シテ労働者ノ欲望増加シ其獨立心盛ナルニ及ヒテハ貨幣ノ支拂法ニ依ラサルヲ得ス而シテ貨幣ヲ以テ賃銀ヲ受取ルトキハ甚タ便利ナリト雖モ物價ノ變動ヨリ生スル影響ハ全ク之ヲ負擔セサルヲ得サルナリ實物支拂ノ賃銀モ亦全ク其跡ヲ絶タスト雖モ現今ニ於テハ貨幣支拂ノ賃銀主トシテ行ハレ彼ノ「トラクタシ」ニシテ之ノ弊害ヲ豫防スルカ爲メ賃銀ハ貨幣ヲ以テ支拂フヘキコトヲ規定スル邦國少カラサルナリ

第二 賃銀ハ時間ニ應シテ支拂フモノト仕事高ニ應シテ支拂フモノトアリ前

者ニ於テハ契約ノ條件單純ナルカ故ニ雇主ト労働者トノ間ニ誤解ヲ生スルコト少ク労働者ハ豫メ其所得ヲ計算スルコトヲ得ルナリ然レトモ労働者ハ成ルヘク少ク労働ヲ爲サント欲シ雇主ハ成ルヘク多ク労働ヲ爲サシメントスルノ傾向ヲ有シ利害相反スルモノトス仕事高ニ應シテ賃銀ヲ支拂フ場合ニハ雇主ハ生産物ノ多キヲ欲シ労働者ハ所得ノ多キヲ望ミ雙方ノ意思調和スルモノトス且賃銀ハ労働者ノ勤惰ニ應シテ増減スルモノナルカ故ニ公平ト謂フヘキナリ然レトモ此支拂法ハ之ヲ應用スル範圍ニ自ラ限アリ即チ生産物ノ數量明カニ計算シ得ヘク其品質容易ニ識別シ得ヘキモノナラサルヘカラス又労働者ハ過度ノ労働ヲ爲スノ傾向ヲ有シ而シテ一人ノ労働従前ヨリモ多額ノ生産ヲ爲シ得ルカ故ニ労働者ノ數ノ増加シタルト同一ノ結果ヲ生シ爲メニ賃銀ノ低落ヲ來スノ恐ナキニ非サルナリ

第三 普通ノ賃銀以外ニ賞與金ヲ與ヘ又ハ利潤ノ一部ヲ分配スル方法アリ前者ニ於テハ或ハ労働者ノ精勤又ハ生産物品質ノ優等又ハ原料品ノ節約ヲ獎勵スル爲メ一定ノ規則ニ依リ普通賃銀以外ニ賞與ヲ與フルナリ後者ニ於テハ企

業ヨリ生スル利潤ノ一部ヲ勞動者ニ分與スルモノニシテ此方法タルヤ常ニ輾轉反目ノ傾向ヲ有スル雇主ト勞動者トノ關係ヲ調和スルノ效能アルカ如シト雖モ實際其功ヲ收ムルコト難シトス何トナレハ企業ヨリ生スル利潤ハ勞動者ノ勤勞如何ニ基クヨリモ寧ロ世上ノ景氣又ハ之ヲ利用スル企業計畫者ノ手腕ニ依ルコト多ク勞動者非常ニ勤勉ナルモ之ニ應シテ所得必スシモ増加スルモノニ非ス隨テ此方法ハ好結果ヲ收メタル實例ナキニ非サルモ之ヲ應用スル範圍ハ廣カラサルナリ

第四 賃銀ヲ支拂フニ沿革法ナルモノヲ用フルモノアリ即チ雇主ト勞動者トノ合意ヲ以テ生産物ノ標準價格ト標準賃銀トヲ定メ生産物ノ價格カ標準價格ヨリ上レハ賃銀モ亦之ニ應シテ標準賃銀ヨリ上リ之ニ反シテ生産物ノ價格標準價格ヨリ下レハ賃銀モ亦低落スルモノトス此方法ハ専ラ英米ノ製鐵所石炭抗等ニ用ヒラルルモノニシテ他ノ事業ニハ未タ之カ應用ヲ見サルナリ

第三節 賃銀ノ高低スル理由

藝ニ述ヘタルカ如ク賃銀ハ勞動ノ價格ニ外ナラサルヲ以テ其高低ハ需要供給ノ關係ニ依リテ定マルモノトス而シテ需要者タル雇主ハ成ルヘク賃銀ノ低カラシコトヲ欲シ供給者タル勞動者ハ成ルヘク其高カラシコトヲ望ムハ當然ノ理ニシテ勞動者ト雇主ト對立スルノミナラス雇主及ヒ勞動者各自ノ間ニ於テモ競争行ハルルナリ然レトモ賃銀ノ高低ニハ自ラ一定ノ制限アリテ其最低度ヲ定ムル原因ハ勞動者ニ在リテ最高度ヲ定ムル原因ハ雇主ニ在リトス賃銀ノ最低度ヲ定ムル原因ハ勞動者ノ生活ノ程度是ナリ文明ノ程度氣候ノ寒暖生活上ノ習慣教育ノ高低職業ノ種類等ニ依リテ同一ナラスト雖モ一國ノ勞動者ニシテ同一ノ階級ニ屬シ同一ノ勞動ニ従事スル者ハ自ラ生活ノ程度ヲ等シクスルモノトス而シテ賃銀下落シ從來ノ生活程度ヲ維持スルコト能ハサラントスルトキハ勞動者ハ全力ヲ盡シテ之ニ抵抗シ以テ其低落ヲ防クナリ生活ノ程度ナルモノハ固ヨリ一定不動ノモノニ非ス能フ限リ抵抗ヲ試ムルモ尙ホ賃銀下落スルトキハ最下等ノ程度ニ下ルコトアルモ賃銀上騰スルトキハ生活ノ程度モ亦上ルモノトス然レトモ一定ノ時一定ノ地ニ於テハ同種類ノ勞動者

間ニ於テハ自ラ生活程度ノ最低限アルヲ見ルナリ
 「ワカド」ハ労働者ノ生活程度ト賃銀ノ關係トニ付キ極端ナル學說ヲ唱ヘタ
 リ曰ク労働ノ自然價格ハ労働者カ生活シ且其繼續者ヲ産出シテ其數ヲ増減
 セナルカ爲メニ必要ナル費用ニ等シトス而シテ實際市場ノ賃銀ニシテ此自然
 價格ヲ超ユルトキハ労働者ハ幸福ノ境遇ニ在ルモノニシテ十分ニ其欲望ヲ滿
 タシ得ヘシ然レトモ其結果タルヤ必ス人口ノ増殖ヲ來シテ隨テ労働者ノ數増加
 スルカ故ニ需要供給ノ關係ニ因リ賃銀ハ再ヒ自然價格又ハ其以下ニ低落セン
 是ニ於テ労働者中生活ニ必要ナル欲望ヲ満足セシムルコト能ハサル者ヲ生シ
 テ死亡ノ割合増加シ隨テ労働者ノ數減少スルカ故ニ賃銀上騰シテ自然價格ニ
 達スヘシ此ノ如ク賃銀ハ高低スルモノナレトモ常ニ自然價格ヲ中心トシテ之
 ニ近ク傾向ヲ有スルモノナリト而シテ社會主義論者ハ「ワカド」ノ賃銀說ヲ
 賃銀ノ鐵則ト名ケ之ヲ前提トシテ推論シテ曰ク賃銀ノ高低スル所以リカド
 一ノ言ヘルカ如クナルトキハ労働者ハ始終社會ノ下層ニ在リテ毫モ其境遇ヲ
 改良スルコトヲ得ス是レ實ニ殘酷ナル經濟上ノ原則ニシテ其然ル所以ハ現今

ヲ阻害セントスル者ニ對抗スルコトヲ許セリ蓋シ占有者カ所有權ヲ有スルト
 否トヲ別タス均一ニ之ヲ保護スル所以ノモノハ他ナシ若シ之ヲ検査セントセ
 ハ占有ヲ保護スル效力ハ所有權ノ證據ト爲リ全然無効ニ屬スレハナリ
 占有ノ保護ハ此ノ如ク一般ナルモ然レトモ惡意ノ占有及ヒ盜賊ノ如キニ於テ
 「インテーム」Intendiumヲ許サス何トナレハ此保護ノ目的ハ占有者ヨリモ少
 キ權利ヲ有スル者カ爲サントスル所ノ攻撃ニ對シテ占有者ヲ防護スルニ在リ
 惡意ノ占有者及ヒ盜賊ノ如キ占有者ハ一層大ナル真正ノ占有權ニ對抗スルコ
 ト能ハサレハナリ蓋シ此等ノ場合ハ例外ニシテ通常物權ノ所有權ヲ有スル者
 ハ又同時ニ之ヲ占有スル者ナリ故ニ外面所有者トシテ現ハルモノヲ保護ス
 ルハ真正ノ所有者ヲ保護スルヲ常則トスルナルヘシ
 占有ヲ構成スルニ必要ナル二要素アリ一ハ有形的ニシテ外部ノ事實ナリ之ヲ
 Corpusト謂フ他ノ一ハ無形的ニシテ占有者カ自ラ物件ノ所有主タリト思惟ス
 ル意思ナリ之ヲ Animusト謂フ
 第一ノ元素タル Corpusトハ實質上物件ヲ抑留シ之ニ對シテ其所有主タルヘキ

行爲ヲ實行スルコトヲ贈テ然レトモ此行爲ハ日月之ヲ反復演出スルゴトヲ要
 ヲスシテ唯何時タリトモ隨意ニ之ヲ爲シ得ヘキノ狀態ニ存スルヲ以テ足レリ
 トス例ヘハ貨物ヲ蓄積セル倉庫ノ鍵ヲ所有スルカ如シ又 Corpus ハ占有主ト物
 件トノ直接ノ觸接ヲ必要トセザルヲ以テ奴隸家子等ヲ以テ代表モシムルコト
 得第二ノ元素タル Animus トハ物件ヲ以テ己ノ所有ニ屬スルモノト確信シ自
 ラ其所有主ト爲スノ意思ナリ是ヲ以テ物件上ニ施ス所ノ行爲ハ主人タル名義
 ヲ以テシ所有主トシテ行動スルコトヲ要ス故ニ物件上他人ノ優等ナル權利ヲ
 認ムルモノ例ヘハ物件ノ寄託ヲ受ケタル者家屋ヲ賃借シタル者ノ如キハ單純
 ナル物件ノ抑留者ニシテ占有者タルヲ得ス Animus ハ Corpus ニ異ナリ物ノ占有
 者自身ニ附随スルカ故ニ占有ハ他人ノ Corpus ヲ籍リテ得取スルコトヲ得ルモ
 決シテ自己以外ノ Animus ヲ以テ之ヲ得ル能ハス故ニ奴隸家子タリトモ主人家
 父ノ Animus ニ代ル能ハス又狂人ノ如キ意思ナキ者ハ Animus ヲ有スル能ハス
 物件ノ占有ヲ得シテ欲セハ此兩元素ノ併立ヲ要シ其一ヲ缺クヘカラス Corpus
 ニ於テハ現ニ物件ト共ニ有形上觸接シテ在ルカ或ハ物件ノ其享有ナルヘキ

狀態ニ在ルヲ以テ足レリトス而シテ Animus ニ於テハ占有者ノ或ハ物件ヲ拾取
 シテ自己ノ占有ト爲スニ在リ或ハ第三者カ自己ノ所有スル物件ヲ以テ占有者
 ノ爲メニ己ノ Animus ヲ讓與スルノ意ヲ含蓄セル法律行爲即チ正當理由 Causa
 (onus) ニ因リ占有ヲ得タルトキニ於テ存在セルモノト看做スモノトス此正當理
 由トハ賣買贈與遺贈等ヲ指シ關スル所ハ其當時ニ於テ舊占有者カ自己ノ Animus
 ヲ讓與スルコトニ在ルト新占有者カ所有權ヲ得取スルノ意思アリタルトニシ
 テ果シテ新占有者カ所有權ヲ得タルヤ否ヤヲ問ハス單ニ之ヲ得ントスルノ其
 意思ノ存在スルトキハ之ヲ以テ占有ヲ得ルニ足ルモノトス
 占有ノ喪失ハ又兩元素ノ一或ハ兩者共ニ消失スルニ因リ起ルモノトス Corpus
 及ヒ Animus 兩元素ノ消失ハ物件ノ破滅或ハ占有主カ好ミテ之ヲ他人ニ讓與ス
 ルトキニ現ハルルモノニシテ單ニ Animus ノ消失ハ占有者カ物件ニ對シ主人タ
 ルノ狀態ヲ放棄シタルトキ例ヘハ物件ヲ他人ニ讓與シタル後尙ホ寄託者借家
 者ノ名ヲ以テ之ヲ抑留スルトキニ在リ又單ニ Corpus ノ消失ハ物件ノ他人ニ掠
 奪セラレタルトキノ如シ然レトモ或場合ニ於テ Corpus ノミノ消失ニ因リ占有ヲ

失ハス *Animus* 一箇ニ據リ之ヲ保存スルコトアリ例ヘハ奴隸又ハ番人ヲ以テ守ラシムル家屋ニ於テ其奴隸又ハ番人ノ之ヲ放棄シタルノ事實ニ因リ占有ヲ失フコトナキカ如シ然レトモ第三者ノ之ヲ占領スルニ及ヒテ始メテ占有ヲ失フモノトシタルカ其後占有者第三者ノ占領ヲ知リタル後之ヲ驅逐セスシテ放棄スルニ非サレハ占有ヲ失フコトナシト爲シタリ此規則ハ初メ羅馬法ニ於テ *salus Ihereni et aedivi* ト名ケラレ冬期又ハ夏期ノ間ノミ使用セラルル牧場ノ土地ニ於テ採用サレタルカ共和時代ノ末ニ至リテ伊太利ニ於テハ小耕作ハ漸次消滅シ大所有ト爲リ私人及ヒ市街等「アペチン」(*Apennin*)山ノ兩側ニ廣大ナル牧場ヲ有セシカ伊太利ノ氣候トシテ冬期ノ季候ヲ逐ヒ獸群ヲ移住セシメサルヘカラサルヲ以テ一處ヨリ他處ニ移ルノ間若シ占有ノ繼續セサルモノトセハ占有者ハ容易ニ篡奪者ノ爲メニ占領セララルル危險アリタルヨリ遂ニ此等ノ土地ハ *Animus* ノミヲ以テ其占有ヲ保存スルコトト爲シ其後教科時代ノ頃ニハ此除外タリシ規則ハ一般ニ不動産ニ適用セララルルニ及ヒタリ

羅馬人ノ當初ノ觀念ニ依レハ占有ハ有形的ノ原素ヲ必要トスルヲ以テ唯リ有

體物ノノミ應用スルヲ得ヘク無體物ニ應用スヘカラサルモノト論決シ隨テ地役權相續債權ハ占有ノ問題ト爲ルヲ容ササリシモ理論上此ノ如キ區別ハ辯明スヘカラサル所ニシテ例ヘハ地役權ニ於テハ所有權ニ於ケルト同シク有體物上ニ實行スヘキ權ニシテ或ハ之ヲ通過シ或ハ汲水シ或ハ畜群ヲ牧スル等現ニ直接接觸ヲ爲スノ行爲タルヲ以テ恰モ此等ノ權利ヲ占有スルカ如シ其他相續權ニ於テモ亦同一ノ名アリ是ヲ以テ推セハ此等權利ノ所有權ト均シク占有ノ目的タルヘキハ疑フヘカラサルモ羅馬人ノ論理ハ此ニ出テサリシカ「プレト」ルニ遂ニ地役權ノ占有タルヘキヲ認知シ之ヲ以テ準占有 (*quasi Possessio*) ナル名義ヲ下シ *Inhereditum* ナル訴權ヲ以テ之ヲ保護スルニ終リタリ相續ニ關シテハ當初ニ於テハ市民法ハ其占有ノ目的タルヲ許シタルモ相續ヲ以テ無體物ト爲シタル以來之ヲ排斥シタリ又債權ニ於テハ絶エテ占有ト爲ルヘキモノトシテ看做サレタルコトナシ

第三章 所有權得取ノ方法

羅馬法 物 資產ヲ成スヘキ權利 所有權得取ノ方法

所有權得取ノ方法トハ所有權ヲ得セシムヘキ法律行為ヲ謂フ羅馬法ニ於テ數多ノ方法アリ之ヲ大別シテ(1)市民法或ハ通民法ノ得取方法トハ其唯リ羅馬公民等ノミ應用スヘキカ或ハ何人タリトモ應用スヘキカニ從ヒ立テタル區別ナレトモ非公民ノ消失後ハ復タ其目的ナシ(2)根元又ハ分レタル方法トハ物件ノ所有ハ何人ニモ屬セザリシト既ニ屬シタリシトニ從ヒ立テタルモノナリ而シテ根元ノ方法ハ先占(Ocupatio)ノミニシテ他ノ方法ハ皆分レタルモノナリ(3)新舊兩所有者ノ間意思ノ合同アリタルト否トニ從ヒ隨意又ハ不隨意ノ方法トハ之ヲ分ツモノナリ(4)普通名義又ハ各別名義ノ得取方法トハ其資產ノ全部又ハ其幾部分タル名ヲ以テスルト物權各箇ヲ指名シタルトニ從ヒ立テタル區別ナリ之ヨリ各自諸種ノ方法ニ就テ陳述セシム

第一節 先占 (Occupatio)

先占トハ私人ノ所有ト爲ルヘキモノニシテ從來何人ニモ屬セザル物件ヲ占有スルニ因リ其所有權ヲ得ルモノナリ進化シタル社會ニ於テハ先占ノ效用ハ微

微タルモ古昔時代ニ在リテハ一ノ重要ナル得取ノ泉源タリシ蓋シ古代ノ羅馬人ハ敵國人ノ所有物(Res nullius)ハ之ヲ以テ何人ニモ屬セザルモノト看做シ其略取ヲ説明スルニ先占ヲ以テシタリ戰時ニ在リテ軍隊ノ掠取セル物品土地ノ如キハ人民ニ屬シ一兵卒ハ唯格闘シテ得タル物品又ハ隱匿シタル物品ヲ得ルモノトセリ

戰爭ニ因ル先占(Ocupatio bellica)ノ外實際ニ於テ現ハルモノヲ歷舉セシムニ漁釣ニ於テ得タル江河ノ魚狩獵ニ於テ捕ヘタル野獸飛禽ノ如キ無主物ヲ占領シタルトキニ於テハ即チ先占ニ因リ所有權ヲ得取スルモノトス然レトモ其奔逸スルニ於テハ恰モ逃走シタル捕虜ノ如ク之ニ對スル權利ハ全然消滅ス唯有主ノ家畜ニ付テハ先占ノ規則ヲ適用スルヲ得ス其他海中ニ現出シタル島海濱ニ發見スル貝類ノ如キハ皆先占ノ目的物タリ

不定ノ間地中ニ埋没シ所有主ノ知レザル財寶ハ所謂埋藏物(Treasure)ニシテ其發見者ニ屬スヘキカ土地所有者ニ屬スヘキカノ議論アリ然レトモアドリアン皇帝ハ(1)自己ノ土地ニ於テ財寶ヲ發見シタル者ハ其全部ヲ取リ(2)偶然他人ノ

所有地ニ於テ發見シタルトキハ一半ヲ發見人ニ歸シ一半ヲ土地所有者ニ歸シ
(3)神領地或ハ宗教的土地ヨリ發見シタルトキハ其財實ノ全部ヲ發見者ニ歸ス
ヘキコトヲ令セリ

第二節 「マンシパシオ」(Mancipatio)

「マンシパシオ」ハ賣買ノ虛式ニシテ賣買者タル當事者二人證人五名及ヒ秤ヲ持
ツ所ノ「リブリアベンス」(Libripens)ナル一人ノ列座スルヲ要ス此式ヲ實行スルニハ
得取者ハ手ヲ以テ物ニ觸レ「予ハ此物ノ市民法ニ依リ予ニ屬スルコトヲ確言ス
予ハ今銅及ヒ衡秤ニ依リ之ヲ得タルモノナリ」ナル語ヲ鄭重ニ宣言シ終リテ銅
ノ地金(As)ヲ以テ秤ヲ打チ以テ之ヲ代價ノ代リトシテ讓與者ニ付與ス而シテ
讓與者ハ默シテ之ヲ受領スルヲ以テ得取者ニ同意シタルコトヲ示スモノナリ
此式ニ列スル者ハ皆成年(Paten)ノ羅馬公民タルヲ必要トス又物件ノ所有權ハ此
儀式ノ終了ト同時ニ始メテ移轉シタルモノトス
「マンシパシオ」式ヲ爲サントスルニハ(1)「マンシパシオ」目的ト爲ル物ハ現場

ニ存スルヲ要ス何トナレハ得取者ハ自ら手ヲ以テ之ニ觸ルルヲ必要トスレハ
ナリ然レトモ「ガイユス」ノ時代ニハ不動産ニ對シテハ此ノ如キ嚴密ナルコトヲ
請求セスシテ其讓與物タル土地上ニ於テ儀式ヲ舉行スルコトヲ必要トセス(2)
當事者雙方ハ古代法律ノ規則トシテ必ス自身式ニ列シ代表者ヲ以テセシムハ
カラス何トナレハ得取者ハ定式ノ言句ニ從ヒ自己ノ爲メニ得取スト言ハサル
ヘカラス又讓與者ハ他人ノ名義ヲ以テ讓與ヲ承諾シ得取者ノ宣言ニ同意スル
コト能ハサレハナリ(3)當事者雙方ハ共ニ市民法ニ從ヒテ所有權ヲ有スルノ能
力アルヲ必要トス「マンシパシオ」ハ所有權ノ得失ヲ目的トスルカ故ニ當事者ハ
商事權ヲ有スルヲ必要トス(4)「マンシパシオ」ニ於テハ賣買ハ期限又ハ條件ヲ附
帶スルヲ許サス何トナレハ其宣言ハ現時ニシテ確定シタル權利ノ認定ナレハ
ナリ
此等ノ形式ハ頗ル奇異ノ觀ヲ呈シ一虛構ナク比喩マリ成立スル如キニ當初
ニ於テハ實際ニ賣買方法タリシヲ示スモノナリ蓋シ式中五人ノ證人ハ當事者
ノ意思カ隨意ナリシコト契約ノ公然タルコトヲ確證スルモノニシテ其他特許

者 (Libriens) 銅片衡秤ハ太古未タ貨幣ノ存セザリシ時代ニ於ケル賣買ハ物品交換ノ狀ヲ呈シ物品ノ買取者ヲ實際ニ銅ノ重量ヲ計リタルモノニシテ持秤者カ其重量及ヒ品質ノ正確ナルヲ檢シタルコトヲ示スモラナリ後世貨幣ノ政府ニ由リ鑄造セララルニ及ヒ持秤者及ヒ秤量銅片等實用上其價值ヲ失ヒシモ儀式上仍ホ之ヲ保存シタリ

「其宣言ハ擬訴棄權ニシテ、
 「インシバンシオ」ハ羅馬帝國ノ末ニハ已ニ消失シタルヲ以テ、ジュスタニアノ帝國ノ法律ハ之ニ論及セス

第三節

In iure cessio (擬訴棄權)

是レ一種ノ訴訟ノ擬似ニシテ讓與スヘキ物品ノ所有權ヲ裁判官ノ前ニ請求スルノ儀式ナリ物品ノ讓與ヲ受ケントスル者ハ先ツ手ヲ以テ之ニ觸レ定マレル言句ニ從ヒ物品ハ市民法ニ從ヒ己ニ屬スルコトヲ宣言スルモノトス若シ實際ノ訴訟ナレハ對手ハ之ニ反駁スヘキモ、イン、ジュレ、シユシオ (In iure cessio) ニ於テハ沈黙ノ姿勢ヲ取リ敢テ抗辯セス是ヲ以テ法官ハ讓與者ノ自白ト爲シ物品

ヲ得取者ニ歸スルモノナリ此方法ハ奴隸解放及ヒ養子ノ際ニ於テ應用サレタルハ既ニ説キタルカ如シ

In iure cessio ニ於テハ法官ノ前ニ其目的タル物品ヲ提出セザルヘカラス此ノ如キ條件ハ動産ニ付テハ著シキ困難ナキモ不動産ニ於テハ之ニ異ナリ移轉スルコト能ハサルヲ以テ法官及ヒ當事者ハ自ら其存在セル場所ニ赴カサルヘカラルナルノ煩勞アリ是ヲ以テ不動産ニ於テハ其一片ヲ持來リ法官ノ前ニ定式ヲ行フヲ以テ足レリト爲シタルカ此省略方法ハ又遂ニ動産ニモ適用セラレタリ又 In iure cessio ニ於テハ「インシバンシオ」ニ於ケルト同シク決シテ代表者ヲ用フルヲ許サズ

In iure cessio ハ其適用區域「インシバンシオ」ヨリモ廣潤ニシテ Res mancipi 或ハ Res nee mancipi ノ區別ナク又有體物無體物ヲ別タス是ヲ以テ Res mancipi ニ向テハ Mancipatio 又 Res nee mancipi ニ向テハ引渡トノ重用ヲ爲シタリ唯 Res nee mancipi ニシテ無體物ナルトキ例ハ收買權及ヒ都市ノ地役權ニ於テハ In iure cessio ハ其效用アリ通常當事者ニシテ得取ノ方法中選擇スルコトヲ得ル場合ニハ

Jure cessio ヲ法官ノ關係ヲ要スルヲ以テ煩雜ノ嫌アリ當事者ハ之ヲ避ケ他ノ方法ヲ取ルヲ常トセリ *In jure cessio* 亦帝國ノ末ニハ廢止サレシムスチニアシ時代ニハ巴ニ存在セザリキ

第四節 引渡 (Traditio)

引渡トハ物件ノ所有權ヲ移轉セントノ意思ヲ以テ之ヲ得取セント欲スル者ニ物件ヲ交付スル有形的ノ行為ヲ謂フ之ヲ豫約スレハ占有ノ交付ニシテ其體素 (Corpus) ト心素 (Animus) ト共ニ有形物ヲ他人ニ付與スルモノナリ故ニ單ニ體素ノミヲ以テスル物件ノ引渡ハ抑留ノ行為ヲ作ルノミ之ヲ空虛引渡 (*Nuda traditio*) ト爲シ決シテ所有權ノ移轉ヲ伴フコトナシ
第一ノ體素 (Corpus) ト爲ルハ讓與者ハ物件ヲ手離シ得取者ハ之ヲ處分シ得ルキ能力ヲ得ルニ在リ此目的人述シ得ヘキトキニハ其交付方法ノ如何ヲ問ハス故ニ或ハ直接ニ物件ヲ手ヨリ手ニ渡サス單ニ其眼下ニ置クニ在リ (*Traditio longa manu*) 或ハ物件ヲ保有スル倉庫ノ鍵ノ交付 (*Traditio symbolique*) ヲ依リ或ハ既ニ抑

雜 談

○民法第六十九條ノ解釋 民法第六十九條ニ所謂年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權ノ意義ニ付テハ其前條ニ所謂定期金ノ債權ト混視スル人アレトモ其誤レルコトハ多言ヲ要セザル所ナリ今第六十九條ノ解釋ニ關スル大審院ノ判決要旨ヲ記サンニ曰ク「民法第六十九條ニ所謂年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權トハ終身定期金利息等ノ如ク一定ノ法律關係ヨリ遞次ニ發生スル債權ヲ稱スルモノニシテ本訴債權ノ如ク年ヨリ短キ時期ヲ以テ分割辨濟ノ期限ヲ定メタル債權ハ之ヲ包含セザルコト既ニ本院ノ判決トシテ是認スル所ナリ」ト (大審院明治三十六年(才)第五百八號貸金請求事) (三十五年(才)第五百八十一號貸金請求事件同年十二月十一日判決參照) (民事訴訟法) (三十五年(才)第五百八十一號貸金請求事件同年十二月十一日判決參照) 民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ其存續期間オク面シテ建物又ハ竹木アルトキハ建物ニ付テハ其朽廢マテ竹木ニ付テハ伐採

期ニ至ルヲ存續スヘク民法施行法第四條第二項其建築物ニ修繕又ハ變^〇更^〇加ヘタルトキハ原建築物ノ朽廢スヘキヲ時ヤチ存續スルモノトス(同第三項)而シテ其建築物カ火災等ノ爲メニ滅失シタル場合ニ於テモ亦其朽廢スヘカリシ時マチ存續スルコトハ大審院ノ判例トスル所ニシテ既ニ本雜報六五頁ニ於テ報遺シタル所ナリ然ラハ建築物ヲ改築スルカ爲メ其朽廢前ニ取^〇毀^〇チタルトキハ如何此場合ニ於テモ仍ホ民法施行法第四十四條第三項ニ所謂變更ト謂フヘキモノナルカ大審院ハ判決シテ曰ク「建築物ヲ所有スル爲メニ設定セラレタル地上權ニシテ其期間カ民法施行法第四十四條第二項ニ依リ其建築物ノ朽廢ス可キ時マチ存續スヘキモノナルトキハ其朽廢前ニ於テ改築ノ爲メ之ヲ取^〇毀^〇チタリトモ地上權ハ其建築物ノ自然ニ朽廢ス可カリシ時迄依然存續ス可キモノニシテ地上權者カ其建築物ヲ故チラニ取^〇毀^〇チタル時ニ消滅ス可キモノニ非^〇ス」(大審院明治三十六年三月十八日第三號地上權設定假登記事件明治三十七年三月十八日第二民事部判決)又ハ「^〇受^〇益^〇者及ヒ轉^〇得^〇者ノ善意ハ一般ノ原則ニ反シテ受益者又ハ轉得者自身之カ立證ノ責ニ任

スヘキコトハ大審院ノ判例トシテ認ムル所ニシテ是レ亦本雜報一七頁ニ於テ報道シタル所ナレトモ尙ホ同院最近ノ判例ヲ紹介センニ曰ク民法第四百二十四條ノ規定ニ於ケル詐害行爲ノ取消ハ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知りテ爲シタル法律行爲ニ出ラシモノタル以上ハ其一事ヲ以テ債權者ハ之ヲ請求シ得ヘキ法意ニシテ若シ其利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者カ其債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラサリシトキハ例外トシテ其行爲ノ取消ヲ免カサルコトヲ得セシムル爲メ但書ヲ加ヘラレタルニ外ナラス故ニ此場合ニ於テ其轉得者等カ其行爲ノ取消ヲ免レンニハ右事實ヲ知ラサリシ證明ヲ爲スヘキ責任アリト云ハサルヲ得スト(大審院明治三十六年三月二十五日第二民事部判決)

○戰時ノ物價 戰時ニ於ケル物價ノ高低ハ一概ニ之ヲ論スルコトヲ得スシテ物品ノ性質外債ノ結果並ニ人心ノ傾向等ニ依リテ左右セララルルカ如シ今之ヲ三十五年度及ヒ三十六年一月ニ比照シテ開戰前後ノ物價ヲ示セハ應ニ左ノ如シト云フ(東洋經濟新報三〇五號)

年月次 食料品 原料品 製造品 平均

三五年平均	112.8	100.0	100.5	103.9
三六年一月末	113.0	99.5	99.1	103.1
七月末	116.8	106.4	101.4	108.3
十二月末	126.9	105.8	103.3	108.3
三十七年一月末	127.5	106.2	101.7	108.3
三月末	128.8	109.8	101.6	109.7
六月末	130.5	111.4	101.7	111.5
九月末	132.5	112.6	101.7	113.9
十二月末	137.3	114.8	101.7	114.6
三月上旬末	137.3	114.8	101.1	114.8
六月上旬末	137.0	114.0	101.1	115.5
九月上旬末	135.4	112.4	101.8	114.4
十二月上旬末	133.1	111.4	101.6	113.4
三月上旬末	131.9	111.5	101.7	113.4
六月上旬末	131.5	111.4	101.3	113.4
九月上旬末	131.4	110.4	101.1	113.3
十二月上旬末	131.4	110.1	101.1	113.3
三月上旬末	131.4	110.1	100.7	113.1
六月上旬末	131.4	110.1	100.7	113.1
九月上旬末	131.4	110.1	100.7	113.1
十二月上旬末	131.4	110.1	100.7	113.1

法學志林

第五十六號
五月十五日
發行
定價 每月一圓十五日發行
郵稅 每冊拾貳錢
郵稅 每冊拾貳錢
郵稅 每冊拾貳錢
郵稅 每冊拾貳錢

- 校友學生校外生ニ限リ特價一冊拾錢郵稅壹錢十冊前金郵稅共壹圓
- 贈賂トシテ官吏ニ賂ルヘク委託シタル金銀ノ費用 法學博士
- 片約單御行爲ニ就テ 法學博士
- 統計學ノ話 法學博士
- 露國新手法(五) 法科大學生
- 母ノ財産管理ノ辭任及其意思表示ノ方法 法學博士
- 被放談者ト其ニ犯罪ノ實行ヲ爲シタル數談者ノ處分 法學博士
- 備船契約ノ簡便ノ物品運送契約ノ規定ノ差異 法學士
- 法界小言 與
- 大審院新判決例二十七件
- 非常特別稅ニ關スル注意 高橋博士ノ露艦國際法違反論○新法學博士○監査役ノ豫選ニ關スル邊境法律學士ノ意見○第一陸戰ノ大勝利○旅順口閉塞ノ成功○巡査ノ家宅搜索ニ於ケル佛國ノ資金 裸體問題ノ續出○橫山博士前妻ノ免訴○臺灣法院ノ廢台○
- 清國留學生ノ爲メニ特設シタル法政速成科開講式○清國留學生法政速成科設置趣意書寄附金募集委員○圖書購入費募集ノ景況○五大學聯合科懸賞大討論會○實業懇話會○校友異動○校友死亡○寄贈書目

發行所

法政大學

特別法講義錄

第十四號 (五月三日發行)

每一回發行
謝金十五錢

市制町村制

法學士松浦鎮次郎

現行租稅法論

法學士若槻禮次郎

競賣法

法學士吾孫子勝

非訟事件手續法

法學士橫田五郎

公證人規則

法學士山脇貞夫

○戶籍法(完結)法學士島田鐵吉○人事訴訟手續法

(完結)法學士松岡義正○特許法(完結)法學士杉本

貞治郎

●一號ヨリ缺本ナシ

五月

法政大學

明治三十七年五月廿九日印刷

明治三十七年六月一日發行

(定價金貳拾錢)

編輯者 東京市牛込區牛込北町十番地 萩原敬之

印刷者 東京市牛込區矢來町三番地 小宮山信好

印刷所 東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地 金子活版所

發行所 東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 法政大學

(電話番町百七十四番)

(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
每月十圓 一日三五八日廿一日廿五日廿八日發行